574

574-7

1200501519309

180

帝國圖書館藏

# 南部叢書

第一冊

帝國圖書館藏

574-7

# 凡例

一、舊南部藩領内に於ける文獻を編纂して刊行せんとする希望は、洵に數年以前からの斷えざる思念の一つであつた。往昔から上梓された版本としては、僅に詩文の一少部分に限られ、史料としては「舊蹟遺聞」の一本に過ぎず、隨て舊藩時代から現今に至るまで、都鄙の間に埋もれ、往古から傳承し來つた儘、幾百年の久しい間、秘藏せられる貴重な舊記・古文書等の珍籍秘書が決して尠くはない。即ち此の主として人目に觸れず、且は流布することの少ない文獻を蒐め長く後昆に貽されんとして刊行したのが實に此の南部叢書の主たる目的なのである。

一、叢書に蒐集した材料の撰擇に就ては、岩手縣の山間僻地はもとより言ふ迄もなく、舊藩時の關係から延いて青森縣及び秋田縣の一部をも加へ、各縣下愛藏家は勿論、宮内省圖書寮・内閣文庫・帝國圖書館・各帝國大學圖書館を初め、各地の

公私圖書館の所藏本に據つて渉獵した資料の總數四千餘種の中から嚴選した一點よりしても、本叢書の正確と價値とを首肯し得らるゝ事であらうと思ふ。史料として刊本を收錄したものは、僅に「舊蹟遺聞」の一本のみである。

一、本書を刊行するに當り、便宜上風土記類・史料・傳奇類・地理紀行・詩文・學事・漂流記等、十册に分類して收めることにして居る。蒐集した全部を數へる時は、實に一百余卷の夥しい數に及び、收錄の範圍は鄉土代表史料の外、文學・本草・天文傳說方言・漂流記・奥淨瑠璃・驛程圖等一切の方面を網羅し、稀覯の史料として、大に誇り得ることゝ信ずるのである。

一、本書の校訂に於ては、飽くまで嚴正を期せんとして、極力異本を蒐集し「南部根元記」の如きは十數種を「志和軍記」「九戸軍談記」の如きは何れも八九種を集め、先づ以て善本に據り原作者の意圖を尊重しつゝ校訂を施したもので、從つて文章の布置、文字の用法等もすべて原本に則り、出來得る限り原作の俤を彷彿たらしめんことに努めた。

一、書中の作字・當字・缺字・蠹蝕・頭註等は、悉く原本の如く措置し、挿註は校訂者のしたものに限り○を付し、若し原本不明にして意義の通ぜぬ個所は（マヽ）と明瞭に顯はして置いた。又原作以外に句讀點を設けたのは偏に讀解を容易ならしめんとしたものに過ぎぬ。

一、本書は昭和二年五月を以て第一册を配本し、昭和四年十二月、全十册の刊行を終了する豫定である。毎卷の數量は採錄書目の多寡に依つて、多少の變更は免かれぬであらう。

昭和二年五月

# 南部叢書刊行會

校訂（いろは順）

故 伊能嘉矩
新渡戸仙岳
太田孝太郎
小笠原謙吉
及川與惣治
上關光三
内藤虎次郎
中道等
金田一京助

題簽 内藤虎次郎
裝幀 平福百穂

代表者 太田孝太郎

# 南部叢書 第一冊

目次


奥々風土記——（一——二七四）
澤内風土記——（二七五——二九八）
鹿角由來記——（二九九——三一六）
宮古由來記——（三一七——三三六）
川くるみ狀——（三三七——三四四）
續川くるみ狀——（三四五——三五一）
盛岡砂子——（三五二——五七二）

# 奥々風土記

# 解題

奥々風土記は、江刺恒久が藩主南部利剛より、封内風土記の編纂を命ぜられて筆を執つたものであつて、此の種風土記中の代表的の物と目せられ、舊南部藩の全領を網羅した浩瀚な著書である。

本書は南部伯爵家所藏本と、江刺家に傳承された原本とに據つたもので、江刺家藏本を見るに、全卷を通じて間宮永好・栗田寛兩先生が、考證の筆を加へられて居る事から察する時は、遲くも明治三四年前に、完結したものと想察することが出來る。（間宮永好は明治五年一月三日歿）

卷首に添へた年表は、著者の嗣子清臣氏の手稿に基き取捨したものである。年表に記した刊行本の外、恒久の著書としては「岩手の嵐」「梅の下風」「森の下風」「燧袋考」「和歌會次第」「弓籠手行縢書」「大秋詞正訓」「葬祭略記」「神遊舞樂」「年契略」「稱辭集」「菊迺屋祝詞集」「菊迺屋歌集」等があると云ふこと

であるが、散佚して傳はらぬ。惜しい事と申さねばならぬ。



# 江刺恒久年表

| 年號 | 年齡 | |
|---|---|---|
| 文政九年 | 一歳 | 二月三日陸奥岩手郡盛岡に生る專司と名く。 |
| 天保十一年 | 十五 | 十二月朔日元服して名を恒久と改む。 |
| 十四年 | 十八 | 藩主に供奉して江戸に上る○一の關本間百里を師として有職古實を學ふ。 |
| 弘化元年 | 十九 | 盛岡に歸る○十二月沼宮内御杖の女艶を娶る。 |
| 嘉永二年 | 二十四 | 漆戸茂喬島川鎌滿に從ひて和歌和文を學ふ。 |
| 安政五年 | 卅三 | 三月花卷城代屋敷に移居す。 |
| 六年 | 卅四 | 八百萬神拜詞一折刊行。 |
| 文久二年 | 卅七 | 閏八月藩主より封内風土記の編輯を命せらる。 |
| 三年 | 卅八 | 通稱を和多理と改む。 |
| 慶應元年 | 四十 | 四十年賀宴歌集あり。 |

二　年　近侍を勤め兼て藩學作人館に於て國學の教師を命せらる。　四十一

明　治　七月藩主轉封の故を以て苅田郡白石に移る○同月藩主舊領に復歸を命せら

二　年　る○盛岡藩廳より神祇職中付らる○十二月權大屬に任せらる。　四十四

三　年　二月大屬に任せらる○十月上京す○伊能穎則を師として古學を修む○小中

村清矩より塾長を囑せらる。　四十五

五　年　二月五日神祇省十三等出仕申付らる○伊能穎則著日本史類名稱訓の次編を

著はす。　四十七

六　年　三月教部省より氷川神社權禰宜に任せられ兼て少講義に補せらる。　四十八

七　年　一月教部省より權大講義に兼補せらる○十月東京府より荏原郡矢口村新田

神社祠官に任せらる。　四十九

十二年　五月大講義に補せらる。　五十四

廿九年　菊迺屋七十年賀歌集刊行○葬祭告詞集一册刊行。　七十一

卅二年　今様考一册及ひ新撰正格今様歌集一册刊行。　七十四

卅三年　前年よりの病患療養を盡したれとも癒えす一月四日東京に於て歿す○遺骨

を盛岡報恩寺舊塋に埋む。　七十五

# 奥々風土記　卷一

陸奥國　**江刺恒久撰**

## 岩手郡

東は閉伊郡南は斯波和賀の二郡にわたり西は出羽と陸奥との國境を限りて仙北郡につゝき北は鹿角二戸九戸の三郡にわたる。扨岩手郡といふ號の古書に見えたるは大和物語に同帝平城天皇を中奉也狩いとかしこく好み給ひけり。みちの國岩手郡より奉れるみたか世になくかしこかりけれはになくおほして御手鷹にし給ひけり。名をは岩手となんつけ給へりける云々と見えたれは既く郡と定りて世にも然唱たりけんとそおほゆる。凡て物語書は、あらぬ事もて實事やかに取なすものなれと國名郡名なとはさらにまうけて作る物にはあらされは地名の證とするには足れり。東鑑卷九文治五年九月廿三日庚辰の條に清衡繼父武貞卒去後傳領奥六郡

伊澤・和賀・江・刺・稗・抜・志・波・岩手

又同書卷四十六、建長八年六月二日辛酉の條に、岩手左衞門太郎岩手次郎と云人の名も見えたり。是は、當時岩手郡を領て卽其地名をとりてなのりたるか、又は先祖なとの所領地にて、後世までも、かく呼名にはしたりけん。又三代實錄、貞觀四年六月十五日壬子の條に、山城國、正六位上、天穗日命神、陸奥國鎭守府正六位上岩手堰神、並預官社、又延喜神名式に、陸奥國膽澤郡、石手堰神社なと見えたる石手堰神は、もと岩手郡に所以ある神にて、其地に齋ひ奉るべきを、鎭守府近き膽澤郡にしも齋奉られたるなるへし。扨上古は、其國、その所に、功ありし神を、其處にいはひ祭て、其地名を以て、其神の御名に稱へ、又その神の御名もて、卽その地名に負せしこと多かり。されは此岩手堰神も全く岩手てふ地名をとりて、御名におほせ奉りけんとそおほゆる。かくて、岩手郡は古へより、郡と定りて其地名も、いと古くものにも見えたれと、延喜式、和名抄なと、國郡を載られたる中に、みな漏たるは、當時いまた眞郡にはあらされはなるへし。拾芥抄より後の書籍にはみな見えたり。

向中野村 云牟加比那加能

仙北町村 仙北ノ二字以音訓レ町云麻知

本宮村 云母登美夜

大田村 今作太田共云於本多又分上中下三村



鹿妻村 云加豆麻今分上下二村

大釜村 云於本加麻

栗屋川村 作厨川又栗谷川共云久理夜加波今分上下二村

大澤村 云於本佐波

瀧澤村 云多岐佐波

長山村 云那加夜麻

上野村 云宇波能

阿庭村 云阿爾波

南畑村 云美那美波多

下田村 云志母太

松内村 云麻都那伊

田頭村 二字以音

平舘村 云多比良太旦

平笠村 云比良加佐

伊去村 今作猪去共云伊佐理

篠木村 云志能岐

鵜飼村 云宇加比

雫石村 云志豆久伊志

西根村 云爾志禰

御明神村 三字以音

鶯宿村 二字以音

繫村 云都那岐

川崎村 云加波佐岐

堀切村 云本理伎理

大更村 云於本夫氣

寄木村 云余理伎

松尾村 云麻登袁

坊　村以音

野田村（今作野駄共云能太）
寺田村（云豆良太）
上關村（云和世伎）
土川村（云都加波知）
沼宮内村（云奴麻久那伊）
江苅内村（云延加理那伊）
久保村（云久煩）
川口村（云加波久知）
丹藤村（二字以音）
卷堀村（云麻伎煩理）
好摩村（二字以音）
武道村（二字以音）
澁民村（云志夫多美）

葉木田村（云波乃伎太）
荒木田村（云阿良伎太）
帷子村（云加多備良）
一方井村（云伊知加多爲）
御堂村（二字以音今作神堂）
川原木村（云加波良岐）
五日市村（云伊都加伊知）
子抱村（云古太伎）
草桁村（云久佐氣多）
寺林村（云豆良波夜志）
永井村（云那賀爲）
芋田村（云伊母多）
馬場村（云婆々）
玉山村（云多麻夜麻）



日戸村（云比乃杼）
上田村（云宇閑太）
川俣村（今作川又共云加波麻多）
三割村（云美都和理）
山岸村（云夜麻岐志）
藪川村（云夜夫加波）
新城村（二字以音○又新庄に作る）
中野村（云那加能今唱東中野）
安庭村（云阿爾波）
梁川村（云夜那加波）

上件、七十九村は、岩手郡中に在村（カミノタクリ）なり。

○橋場驛
○寺田驛
○藪川驛

鵤逸村（今作門前寺共以音）
黑石野村（云久呂伊志能）
二王村（二字以音）
加賀野村（云加賀能）
米内村（云余那伊今分上下二村）
淺岸村（云阿佐岐志）
志氣村（云志氣）
川目村（云加波米）
門　村（云加杼）
橋場村（云波志婆）

○田頭驛
○澁民驛
○築川驛

上件六所は、岩手郡中の驛家なり。

○雫石里

盛岡城の正西にありて、城下より行程三里餘あり。

○沼宮内の里

盛岡城の正北にありて、城下より行程八里餘あり

○岩手里

今盛岡城を構たる所則岩手里なり。夫木抄卷六、山吹の歌に、前中納言大江匡房、くちなしの色とそ見ゆる陸奥の岩手の里の山吹のはな、又同卷よみ人しらず、きて見れはくちなし色に咲にけり岩手の里の山吹の花とよまれたるは此里なり。

○三石神社

三割村にあり。今東顯寺といふ寺の境内なり。傳說尋て猶記へし。

○八幡神社

盛岡城内にあり。昔日戸某か居たりし城にて、其子孫、氏神といつき奉れりし神社なりとそ。御神殿の後に、烏帽子の形したる大石あり。此を烏帽子石と稱ふ。其石に稻綱とて、二年にひと度、しめ繩を引渡すことあり。其業は今も、日戸氏のもの出て物



するは古例のまゝなりとなん。扨城の東南、八幡山といふに、此大神の御旅所あり。こは延寶八年のころに、我君行信公の造營られたる假宮なり。

○熊野十二神社

大澤村にあり。

○鹿嶋神社

土淵村にあり。往昔康平年中、大將軍源頼義朝臣、朝敵安倍貞任等を征伐めんとする時、厨川城の南なる、粉葛川の水かさ増りて、打渡らんすへなかりしかは、頼義朝臣、深く神力を乞祈奉りしに、不慮、川中に嶋出たり、それをたよりとして、無難打渡たりとなん。故此國平け給ひし後に、此處に鹿嶋大神を齋き奉られたりとそ。

○神山神社

土淵村にあり。少彦名命を崇祭れり。

○住吉神社

下厨川村にあり。

○稻荷神社

下厨川村にあり。文治五年、藤原泰衡武衡等を征伐んとて、大將軍源頼朝卿此國に下られし時、工藤小次郎祐光を、厨川城主と定められて、領地を給ひたり、其時祐光か建立たる御社なりとなん。

○鬼古里嶽神社

鬼古里山の上にあり。

○岩手山神社

一方井村にあり。

○豐受皇大神社

本宮村にあり。上古よりの御社なり。鰐口の銘に、

岩手郡中野郷大宮鐘奥州願主田村○俊宅敬白

裏の方に　應永二年乙○十二月吉日とゑり付たる今もあり。

○林崎八幡神社

下太田村にあり。源義家朝臣此處に神社を建立給ひて、いつき奉られしよし縁起に見ゆ。



○藥師神社

繋村の溫泉にあり。則溫泉神と稱奉れり。

○姫神嶽神社

玉山村に屬たる姫神嶽の山上にあり。須勢理姫命を齋奉れりと云傳ふ。

○八幡神社

下厨川村所謂厨川古城にあり、往古より此舘の守神なりとなん。

○八幡神社

平舘村にあり。往古源義家朝臣山城國岩清水八幡神の神靈を遷奉りて、此所に齋奉給ひしよし云傳ふ。御社内に馬場あり、そは義家朝臣、當時流鏑馬を興行れたる跡なりとなん。其遺風古例となりて、今も祭日には、村人出て、流鏑馬の業を行ふなり。是を十七騎乘といふ。

○大豆門神社

下米内村にあり。猿田彦神を齋奉れり。又神躰として崇奉る物は大同二年八月朔日と刻れる獅子頭なるいと古き物なり。

○岩手山神社

岩手山を直に神躰として、大名持神を齋奉れるなり。山上風はけしくて、御殿建かたかりければ、往古より御社はなし。

○田村神社

某村にあり。桓武天皇御宇、延暦二十年のころ、坂上田村麿うての使を蒙りて、此岩手郡に下られし時、まつ此處に軍を集めて、賊衆を討平給ひしなり。扨國中、悉く治りて後に此所に大なる宮を造營、神靈を鎭め奉りて、村人等大宮と呼來りしかは、終に村號にも負て、今も大宮村といへり。

○諏訪神社

上鹿妻村にあり。鰐口の銘に、慶長十八年三月三日右京進寄進と雕たる今もあり。

○藤倉神社

繫村にあり。いと古き御社なり。應永二十七庚子九月二日の棟札あり。祭神は一言主神を齋奉れりとなん。

○御明神社



御明神村にあり。多賀大神をいつき奉れり。昔近江國人某かその國の犬上郡に鎭り座、多賀大神を尊敬奉り、彼神躰を移して御劍を製造、平常に己か家内に安置奉りしを、所以ありて、此國に持來て、御社を建立て鎭め奉りしとそ。扨夫より、田地開けて一村とはなれりしかは、卽村號にもおほせて、近江明神村と呼たりしを、今は訛りて、御明神村といへり。

○鹿嶋神社

盛岡城内にあり。城の東南、新城村に、此大神の御旅處あり。こは寛文二年のころ、○盛岡砂子には寛文元年四月四日新庄山へ遷奥云我重直君の思立れて造營れたる宮所なり。

○藥師神社

下米内村にあり。土人傳云、不來方淡路か、建立たる也となん。

○阿彌陀堂

○下厨川村にあり。佛像は雲慶か作れるなりといふ。

○青龍權現堂

盛岡城下祇陀寺てふ寺の境内にあり。

○觀音堂

城下長町にあり。

○阿彌陀堂

山岸村にあり。因云、赤穗の義士に加りたる、同心組、寺坂吉右衛門か墓所、此境内にあり。そは元來、此國の生立なりしか、彼あた打の後、家族ともに逢見んとて、此地に下りて、身まかりにきとそ。

○觀音堂

沼宮内村にあり。

○御堂觀音堂

御堂村にあり。往古天喜五年に、朝敵安倍頼時を征伐のために、大將軍頼義朝臣うての使を蒙り、頼義義家父子、この國に下られし時、軍兵等、飲水に渴たるを助け給ふとて、義家朝臣、自身弓弭もて、岩を穿ち給ひしかは、清水涌出て、軍兵大く力を得たり。扨敵等こと〳〵く誅伐し後、此處に宮を造營て、義家朝臣の髻の中に被り給ひし、觀音の小像を安置奉りて、北上山新通法寺といふ寺を建られたりとなん。觀音の像は、河内國壺井の通法寺といへる寺のなれは、今は新の字を添へて、新通法寺とは號給たりとそ。



扨、清水の初て涌出たる跡、今も猶存りて絶す流出たり。是則、北上川の水源なり。因云、此御堂の寶物に、いと古き釜あり。こは當時、義家朝臣の、陣中にて用られたる也。徑二尺八寸餘、高さは一尺六寸計の大釜にて今も存り。

○七面觀音堂

寺田村なる白坂と云處にあり。

○觀音堂

川又村小野松といふ所にあり。古老傳云、昔後奈良天皇御世に、萩原左中將清成公、陸奥國に配流れ給ひ、其子、藤若君、天文二十一年のころ、此村の、北上川の川邊、舟場瀬といふ處にて、死給ひしを、卽觀音と稱へて、肌守の觀音像を添へて、こゝに崇奉れりとそ。藤若君の用られたる大刀一振今も存り。

○東顯寺 山號云松峰山

三割村にあり。不來方城主、代々の菩提所にて、往昔は城内にありしを、文祿年中、我君、三戸城は便悪しとて此不來方城を、さらに造營給ひ、居城と定られし時、今の三割村に移せり。

○妙泉寺

加賀野村にあり。こは閑伊郡の下に云へし。

○本誓寺

三割村にあり。元來、斯波郡にありしを、天正年中、火災にあひて、今の地に移せり。此等、皇都の東本願寺の末寺にして、淨土眞宗、二十四寺の其中の第三番の寺格なり。因云、厨川古城より堀出たる大刀、此等の什物の中にあり。

○山伏峠

雫石里の正南、岩手と和賀との二郡の堺に立り。山北は岩手郡南畑村、南は、和賀郡川舟村なり。此嶺上を經て、澤内里に往來ふ。六七月の頃は山虻大く群出て、山みな雲霧のかゝれるか如し。故人馬甚く苦惱て、其ころほひには、虻のために、往來も絶ぬる事しは〳〵あり。又此山の蓮草を見れは、東北の方に生るはみな五葉にして、尋常に異れる事なきを、山南、和賀郡なるは、決て三葉なり。如此嶺を分て、南北こと〳〵に、三葉と五葉とその差別いちしるしきは、何なる由緣にか、いと奇事なり。

○國見峠

雫石里の正西陸奥と出羽との國堺に立り。嶺上は、出羽國久保田驛に通ふ道なり。



山東に、我南部の關所橋場といふあり。山高くして、年中、雪いと白く降れり。たゝ六七月間、しはし消果るのみなり。故冬に至れは、積雪のために、往來絶ることしは〳〵なり。

○雄駒个嶽

雫石里の正西、群山の中に立て、國見峠につゝきたる、是も大き高山なれはつねに雪いと白く降れり。さて和賀郡に、駒形嶽といふ山あるを、今世人誤りて、袁古麻迦多氣といへり。そは彼山に鎭座す、駒形神社を尊むとて、御字を加て、御駒（御は美稱にゞ美といふは、後世のならひなり。）と稱ならへるより、此所の雄駒と同音なれは、終にひとつに混れて、彼をも同名の山也と心得るは非なり。猶和賀郡の下に委くいふへし。

○男須氣山

○女須氣山

兩山ともに、雫石里の正南に並立て、南畑村につけり。山上に池あり。土人傳云、此山々元來夫婦にて、昔は相並て立てりしを、所以ありて別離たりとそ。されと、猶今も村中の東西に對立るは、夫妻の由緣なれはなりといへり。

○鬼古理山

○篠木山

○長山

此山々、みな盛岡城の西北にありて、岩手山の麓の山々なり。

○岩手山

盛岡城の西北にあり。岩手郡なる諸山に秀たる高山なれは、郎郡名を負て、岩手山とはいふ也。扨年中、白雪消ることなく、山形、富士山に異ならねは、世人みな見放て、奥の富士と異名を負せて、歌にもよみ、文にもしるしつるは諾なりけり。古歌に多見え、たる則此岩手山なり。古今六帖第二、山の部に、人麿、いはて山いはてなからの身のはては思ひし如く誰かつけまし、千載集戀一に、左京大夫顯輔、おもへともいはての山に年をへてくちやはてなん谷のうもれ木、又同卷に、顯昭法師、人しれぬ涙の川のみなかみはいはての山の谷の下水、扨山の中央に石神あり。高さ二十丈許、此處を俗に不動平といふ。又山背に窟あり、鬼か城と云、西に向たる方に、影沼といふあり。此沼より落下る水、則數千丈の瀧となれり。又山上に神社あり、則岩手山神社也。



○七時雨山

沼宮内、里の西にあり。山の南は、寺田村、北は荒屋村なり。山上を越て鹿角郡に往來、山中行程二十一里あり。麓は、寺田川の水源にて橋あり、天狗橋といふ。則橋を渡りて鹿角郡に通ふ地なり。山の中央に大なる瀧あり、俗に不動之瀧といふ。

○黒石野山

盛岡、城の北、黒石野村に屬けり。

○八葛山

○高洞山

○玉山

此山々皆、盛岡、城の東北にあり。

○姫神嶽

沼宮内、里の正南、玉山村に屬けり。山上に神社あり、須世理比賣命の、うしはき座す山なれは姫神嶽とは云也。今俗に訛りて姫个嶽といへり。然唱ふるは、比米加美の、美を省きたる語勢にて、古へに例多し、又青根个嶽、弓槻个嶽なとの例に、个は之の意の迦にて、こゝも元來姫个嶽ならんと疑ふ人もあるへけれと、然にはあらす、凡て我さとの山、名に、介と唱添るは、いと

稀なり。　土人傳云、往古岩手山は雄神にまし〳〵て、姫神嶽を本妻とし、早地峰山を妾として座ましき。爰に姫神嶽、いたく嫉妬し給へれは、終に夫婦の中斷たまひき、故姫神嶽、うらみわひて、恒に麻續たりし丸緒をとりて、岩手山の裾野に、皆抛擲たまひしかは、卽數多の小塚となりぬ。今此塚を丸緒盛と稱は、其因緣なりとなん。又當山に登詣つる人民、其年は岩手山には、え參登らす。彼山に登詣たるものも、此山には參登らす。もし詣つれは、必す災ありとて、悉く畏みつゝしむ事也。そは兩山の中惡き所以なれはなりといへり。又山上に池あり、徑五六丈許あり。

恒久按ふに、山爭ひの傳說いとよしありて聞ゆ。古事記に、大穴牟遲神の段に云。八上比賣者如[一]先斯美刀阿多波志都、故其八上比賣者、雖[二]率來[一]畏其嫡妻須世理毘賣、而、其所生子者、刺[二]挾木俣[一]而返中略此八千矛神大穴牟遲神也將婚高志國之沼河比賣、幸行之時、到[二]其沼河比賣之家[一]云々故其夜者不合而、明日夜爲[二]御合[一]也、又其神之嫡后、須勢理毘賣命、甚爲嫉妬、故其日子遲神是も大穴牟遲神なり。和備豆、自[二]出雲[一]將[レ]上[二]座倭國[一]而、束裝立時、云々是はこの山の傳說に緣あり。まつ岩手山の祭神は、大穴牟遲神にて、姫神嶽は須世理毘賣命なり。嫡妻としてうはなりねたみし給へるもよしあり。然れは、早池峰山の祭神は八上比賣命か、沼河比賣命か、其二神のうちを齋奉れること決なし。又萬葉集卷一に、高山波、雲根火雄男志等、耳梨與、相諍競伎、神代從、如此爾有良之、古昔母然爾有許曾、虛蟬毛嬬乎相搭良思吉。　高山與、耳梨山與、相之時、立見爾來之、伊奈美國波良、なとよまれたるも、こゝの趣に相似たる事なり。此歌の古事はかく山とみゝなし山とは、男にて、女のかねひ、山を得んとて、二つの男山の爭ひしをよめる歌なり。今は、女山の姫神嶽と、早地峰山との爭ひなり。如此山爭ひの、古へには往々ありつとおほゆれは、此所の古事も、いと貴き傳說なりけり。

○大豆角山

盛岡城の東北、米內村に屬けり。

○北山

盛岡城の正北に立る山なれは、北山とはいふなり。此山、高からすして、東より西に長く延居りたる山なり。松杉繁茂れり。扨三割村なる愛宕山につゝきて、山下には、諸寺院多く並立たる地なり。

○愛宕山

盛岡城の北、三割村につけり。山上に神社あり。愛宕神を齋奉りたれは、則愛宕山とはいふなり。西は北山につゝき、東南みな田地なり。

○岩山

○新城山

盛岡城の東にあり。

○八幡山

盛岡の城下、則八幡神の御旅所にて御社あり。松杉多く繁茂れり。男女時々つとひて、うたけ遊ふ地なり。

○中野山

○大田山

○寺澤山

○赤前山

此山々は、盛岡城の正東にあり。是皆後世に號たる稱にて、中野某太田某寺澤某赤前某等各領つる山なれは然唱ふるなり。



○見石山

○門山

盛岡城の東南、吾田多良山の下にあり。

○吾田多良山

盛岡城の正東にありて、安庭村につけり。遠く退きて見れは、いと雄々しくたけき山なり。萬葉集卷七に云、陸奥之吾田多良眞弓、著絲而引者香人之吾乎事將成、又卷十四に、安太多良乃禰爾布須思之能安里都々毛、安禮波伊多良牟、禰度奈佐利曾彌、又同卷に、美知乃久能安太多良末由美波自伎於伎氐、西良思馬伎那婆都良波可馬可毛、なとよめりしは、則此吾田多良山なり。山下の邊、今もまゆみと云木多くありて、秋は紅葉色、ことに秀ていとよきところなり。扨安太多良といふへきを、今俗人、安を略きて、多々良山といへり。

○大倉峠

盛岡城の正東にあり。此嶺上を經て、宮古里に往來いと嵯峨道路なり。

○沙子澤山

○根多茂山

盛岡城の正東築川村につけり。

○藥師山

○觀音山

○芋澤山

盛岡城の西南にありて、猪去山につゝきたる山なり。扨藥師山の峰に神社あり、今俗に峯藥師といふ。觀音山にも社あり。則觀音佛を安置れり。

○猪去山

盛岡城の正西、猪去村にあり。山下に、志波治部太輔經詮が三男、猪去兵庫助詮義が住居りし城の跡あり。此處に御所櫻とて、古き大木あり。彼詮義か庭前の植木なれは、俗人猶今も美稱て、御所櫻とはいふなり。花の咲光映いとめつらかなり。

○岩手杜

岩手山の麓平笠村にあり。夫木抄卷廿二、森の部によみ人しらす、陸奥の岩手の森のいはてのみおもひを告る人もあらなんと見えたるは是なり。



○鬼介城、峒

岩手山の背面にあり。其形狀は、最嚴重構たる城の如くなれは俗人鬼が城といふ。土人傳云往古大猛丸といふもの、此窟にすめりしが、威勢猛悍暴惡心にまかせて、村民を危困せつるを大同年中坂上田村麿大將軍として、彼大猛丸の黨類悉く征伐たりき。其時まつ軍兵を、雫石村にあつめて、數十度攻たりしかは、大猛丸、終に防かねて、閉伊郡の海邊なる、月山の麓まて、逃負せて、其所に隱れたるを、田村麿、猶追しきて、入江越に、遠矢を放ちて射殺しき、故、其地の、今、鬼像といへる崖は、則その遺跡なり。又田村麿、その時しはし城を構られしは、臼杵山の東、岩上なりとなん。今、俗、楯が崎、又は獅子が崎ともいへり、猶閉伊郡の下にいふへし。

○雫石窟

雄駒个嶽の近邊にあり。裏の廣さ千人許やとるほと也。往古、大猛丸の徒黨、恒に此窟中に住居て、村民を危困せつる地なりとなん。

○影沼平

沼宮內村にあり。影沼の下に委くいふへし。

凡諸山野に所在草木は、蕨・蒼朮・茯苓・桔梗・沙參・羌活・川原柴胡・舟麻・午膝・白朮・防風・前胡・白芷・細辛・竹節人參・毛人蔓・芍藥・牡丹・天南星・夫麻・荆芥・葛根・當歸・百部根・川芎・木通・猪苓・土通・草烏頭・附子・黄蓮・黄柏・萎蕤・紫根・大黄・獨活・蓬蘆・黄耆・薺苨・黄精・貫衆・玄參・地楡・及巳・苦參・龍膽・杜衡・徐長鄕・弓蒭・蛇床子・積雪草・蓼・白頭翁・蒲萄・薯蕷・卑解・白蒿・施復花・續斷・苦笑・飛廉草・天名精・麥門冬・壹草・龍葵・敗醬・疑冬花・地膚・瞿麥・亭藶子・連翹・蒴藋・紅草・商陸・狼牙・薗茹・大戟・黎蘆・由跋・茸蒲・射干・鳶尾・石龍芮・牛扁・牽牛子・栝樓・通草・忍冬・萍草・絡石・蘩縷・蒲公草・辛蹄・蒲黄・石長生・景天・卷柏・澤蘭・甘草・藁本・白蘞・主不留行・青葙・蘘荷・うつぼくさ・松・桂・柳・櫻・桑・杉・檜・樅・桐・厚朴・槐・檀・黄芩・柏擧・樹・樺・楢・漆・梨・榎・槐・臭桃・枳・樹・五茄・合歡・木辛夷・衞矛・接骨木・梓・柿・いたや・栗木・とちの木・けやき・せの木・菌類には舞菌・かは菌・金菌・銀菌・しめじ菌・雪の下菌・岩菌・つ菌・栗茸・むき菌・ぼりめき・箒茸・わかい・垣根茸・うひこ茸・松菌・きくらけ等あり。禽獸には鵰・鷲・鷹・鷄・鷸子・農風・鳥・山鷄・鴟・木兎・梟・鳩・鴿・郭公・雉・鶉・由・鳥・雲雀・水鷄・鷺・熊・狼・鹿・猪・狐・兎・獼猴・貂・からたち・まみ・くさいの族いと多し。こと〳〵くはえ盡さず。猶其ところ〳〵に標へし。



○雫石川

水源は二水あり。一水は、雫石里の正西、國見峠雄駒が嶽の谷々より出。一水は、葛根田川なり、雫石村に至て二水合、東に流れて盛岡の城下に至て北上川に入るなり。此邊の村民、薪の料に木を伐採り、筏に造りて此川を下して、城下に送るなり。

○葛根田川

水源は、雫石里の正北、岩手山の麓の群山より出。南に流て雫石川に入る。川上は、鳥越の瀧なり、又所謂雫石窟は此川邊にあり。

○鶯宿川

水源は、雫石里の正南、山伏峠より出。東に流、漸に折て、北に流れて、雫石川の上に入るなり。

○籾葛川

水源は、岩手山の麓、群山より出、南に流て雫石川に入る也。

○松川

水源は、沼宮内里の正西、群山より出て東に流、漸に曲折て南に流れ、大更村に至て、寺田川と二水合て、北上川に入るなり。

○寺田川

水源は、沼宮内里の西北、七時雨山より出。南に流れて、松川と二水合て、北上川に入るなり。

○北上川

水源は、沼宮内里の正北御堂村なる觀音社内より出。南に流れて、志波郡津志田村に出て、數多の村々を經て、稗貫郡好地村に出て、猶多くの村を經て、和賀郡成田村に出。又諸村數多經て、伊達の堺に至る。猶南に流れ、膽澤・江刺岩井・登米の四郡を經て、桃生郡に至て、東南二水に分れて流る。東方は、桃生・本吉の二郡の堺を流れて、大海に入。南方は、牝鹿郡を經て、石巻湊に入るなり。凡て、陸奥國中に比類なき大川にて水源より大海に入まて、いよ〳〵南に流るゝ川なり。東鑑巻九に、文治五年九月廿七日甲申の條に云上略至二于四五月一殘雪無消仍號駒形嶺麓有流河而落于南是北上河也衣河自此流降而通二于此河一云々此餘にも往々みえたり。扨稗貫・和賀の二郡の邊此川に築を打て鮭魚をとる、甚住魚なり。川の東西の土地は國中に勝れたる地なれは、岩手・志波・稗貫・和賀等四郡の百姓は、此川によりて、家居を定めたるなり。此川、流れいと速き大川なれは、常の橋は、かけかたくて、舟數多つら並て、橋とせり。所謂南部の舟橋なり。こは延寶六年に、かけわたせるものなり。

○丹藤川

水源は、盛岡城の東北、藪川村に屬たる群山より出。西に流れて、丹藤村に至て、北上川に入るなり。

○中津川

水源二つあり。一水は、盛岡城の正東、淺岸村に屬たる群山より出。一水は、城の東北日戸・藪川の二村に屬たる山々より出。米内村に至て、二水合、西に流れて、城下に至て、北上川に入る。則岩手の里中を流るゝ川なれは、上中下の三つの板橋を掛渡せり。又上中の橋には高欄に葱寶珠てふものを附たり。こは所以ある事にて、三戸郡の黄金橋のところに、委くいふへし。

○築川

水流は二つあり。一水は閉伊郡なる兜明神嶽より出。一水は、斯波郡なる根田茂村に屬たる群山より出。二水合て西に流れ、安庭村に至て、北上川に入る也。

岩手山の脊面中央にあり。則影沼より垂下る水口なり。數十尋の間に段多くありて、段毎に玉水散飛たる、その形勢いと畏し。中ら計に大臼の如く、自然に凹める岩あり。其中にたきり落る水の、又逆さまに飛散て、五百つ白玉の亂るゝ狀、ものにたとふへくもあらす、いみしき瀧になん有ける。

○鳥越瀧

雫石里の正北、群山の中にあり。葛根田川の水上なり。

○日暮瀧

雫石里の（マヽ）

○葛根田沼 或は河子田に作

葛根田と云所の山、奥雄駒か嶽の麓にあり。容易行て見るへくもあらぬ地なれは、周深淺等、昔よりよく知れる人なし。

○影沼

岩手山の脊面の中央にあり、周幾許かよく知れる人なし。

土人傳云、天いとよく晴わたりたる時、此沼の水面に、山の形狀、灼然あらはれて、卽畫に



書けるが如くなり、然て其貌、また沼宮村内なる廣原に移れり。故いと奇事なりとて、其沼をは、影沼と稱ふなり。又其移れる廣原を影沼平と稱は、此由縁なりとなん。

○青笹沼

寄木村にあり。周二十里計。

○青沼

同村にあり。周十八里計、凡て此わたりには、大小の沼、數多あり。岩手山に登てたゝに望れは、青沼笹と、青沼とは、百千の中に、抜出ていと大きなる沼なり。

○上田堤

上田村にあり。上中下と三つ並てあり。周いつれも三四丁計、凡て諸川沼にあらゆる雜物は、鱣・鮭・鯉・鮒・美乃魚・鱒・須受伎・鯉・じか（方言にかと云）・鮎・鮠・久伎・やまべ・まるた・たなこ・海老・どぢやう等大小雜魚あり。冬より春かけて、則鶴・鳳・鴨・鵜・鴛鴦・鵜等の鳥あり。又芹・蓴・菜・菱・烏芋・蓮・骨・蓬・澤・潟・萍・菰等生出るなり。

○鶯宿温泉

雫石里の正南、鶯宿村にあり。土人傳云、足そこねたる鶯、此湯の邊、飛去飛來てしは〳〵

ひたしたりしかは、其病足、幾日も經すして、もとの如くに治つ、扨その驚、終に此邊に巣くひて、他へはえゆかす、故自ら地名とはなれりとなん。此處に來て沐浴する男女老少、諸病に驗あれと別て、中風・折傷・金瘡・古傷等にはいとよく相應て、必消除すといふ事なし。

○繫溫泉

雫石里の正東、繫村にあり。湯桁三つありて、荒湯・泥湯・藥師湯といへり。疥癬諸惡瘡によし、盛岡城下より二十里計隔たりて、いと近き行程なれは、男女老少、晝夜となく往來群集て、年中絶ることなし。

○國見溫泉

雫石里の正西、國見峠の麓にあり。こは驚宿・繫にもおとらさる溫泉なれと、山深く分入ところなれは、浴する人多からす。

○網張溫泉

雫石里の正西、雄駒个嶽の麓にあり。此處に來て浴者、金瘡・撲身の類、忽治ること奇妙なり。



○松川溫泉

沼宮内里の正西、寄木村に屬たる山中にあり。此處に來て沐浴すれは、身體やはらき再濯は萬病悉く消除。然れとも嵯峨き山奥なれは高貴人の浴するは最稀なり。

○不來方城 平地

岩手里の今の盛岡城則是なり。陸奥話記に、康平五年八月十六日の條に、橘貞頼、爲二陣、武則甥也宇、逆志方太郎また東鑑卷九文治五年八月十日の條に下順方太郎と云人名の見えたるなと當時、此城主なれは、然名乘たりけん。明德のころの城主は、不來方五郎政長と云人なり。今も、東顯寺といふ寺中に、墓所の石碑在りて、源翁心公大禪定門、明德二辛未曆九月初五日、不來方五郎政長と彫付てあり。東顯寺は、往昔不來方殿の菩提所なりといへり。扨慶長年中に、我君利直君三戸城は不便とて、此不來方城を、更に修理給ひ、今より後の本つ城と定め給ひて、稱號をは、盛岡と改められしより、今も盛岡城とは云なり。恒久云。不來方は、逆志方、下順方とも作て、古書にも見えて、甚ふるき稱なるを今改めて、盛岡城と唱ふるからに、此里舊名さへ、漸に失せて、今世には、岩手里てふ舊稱は失せてたゝ盛岡とのみいふめる。是は陸奥の此國中を領給へる我君の御城下なれは、その城の稱號を呼て、盛岡里なとゝ唱ふるも、自然のことなれと、後世には、岩手里てふ所はいつこか、不審く思ふ人もなきにしもあらじ、とていさゝか記置なり。

○厨川城 平地

下厨川村にあり。今土人、安倍古館といへる所なり。往昔安倍貞任等かこもりたる城、則是なり。陸奥話記に云、康平五年九月十一日の條に、雞鳴襲鳥海柵行程十餘里也官軍未到之前宗任、經清等棄城走保厨川柵云々東鑑卷九云、文治五年九月二日巳未出平泉令趣岩手郡手を井と作るは誤なり厨川邊是爲相尋泰衡隱住所也、亦祖父將軍追討朝敵之頃十二箇年之間、所々合戰不決勝負、送年之處、遂於件厨川柵獲貞任等首、依曩時佳例、到當所可討泰衡獲其首之由、內々令思案給、云々又同卷十一日の條に、戊辰今日、令立陣岡給中略自是厨川柵者、依爲廿五里行程、未屬黃昏着御件館云々廿五里とあるは、東みち、六丁を一里としたる里數なり。則今の京みち、四里の行程也。如此古書にも見えて、いと古城なり。所謂義家朝臣の後三年の合戰に、辛くして攻落されし所なり。今世にも名高く聞えて、其要害堅固嚴重なる城跡、猶著明く存れり。扨天正慶長の頃、厨川豐前光勝といふものゝ居城なりしとなん。

○嫗戸城

厨川城の西方に嫗屋敷といふあり、則此所なり。陸奥話記に、康平五年九月十四日向厨川柵十五日酉尅到着圍厨川、嫗戸二柵相去七八丁計也、云々と見えたるは、當時是も



安倍、頼時か家族の、居住たりし城なるへし。其後誰人か居たりけん今はしらす。又天正年中には、既く破壞つるか、城主の名も聞えす。

○二反城

安庭村に城跡あり。城主の名聞えす。

○沼宮內城

沼宮內村に今も城跡あり。

○玉山城

玉山村に城跡、今もあり。城主の名聞えす。

○雫石城

某村にあり。天文の頃の城主戸澤十郎政安とあり。十四年に城を攻落されて、最上、新庄へ立退けり。今の戸澤上總介殿の家、則是なり。

○平舘城

平舘村に城跡、猶存り。誰人の居つるか、今知れる者なし。

○一方井城 山地

○寺田城

一方井村に城跡あり。天文の頃、一方井刑部安正か居城なりとなん。

寺田村に今も、城跡あり。城主の名聞えす。

○中野城

東中野村に城跡あり。もと志波家臣高田吉兵衛政康か永祿のころより我君に從ひて、此城を守れり。今松尾神をいはひ奉れる御社は、此城の跡なり。

○堀切城

堀切村に城跡猶存り。城主の名聞えす。

○田頭城

田頭村に今も、城跡猶存り。城主の名聞えす。

○猪去城

猪去村に城跡あり。今猪去御所といふ地なり。天正の頃、城主は、志波治部太輔經詮か三男猪去兵庫助詮義則志波家族なり。

○方八丁

下大田村にあり。源義家朝臣所謂後三年合戰の時、軍兵をやすめ給ひし跡なりとそ。凡て、我君の領給へる國中には、古への城跡多し。天正年中までは、みな城主ありて、其



先祖より續々に領來たりしを、東照宮天下悉く平定給ひし後、我君信直君にも此國中の諸城を、大抵破壞たまひて、わつかに八つ九つ殘されたり。其數は今も猶存り。

○橋場堺關

橋場村にあり。出羽國仙北郡小保内村に往來ふ道なり。

○岩手關

三割村に松坂と云所あり。古へ關屋を建つる處にて、則岩手關の古跡なり。此邊を今も關口といへり。夫木抄卷廿一、關の歌に、中務卿みこ、陸奥にありてふ關のいはてのおもふ心の奥を誰かしるへき、同抄卷二、鶯の歌に、前中納言藤原定家、東路やいはてのの關のかひもなく春をは告る鶯の聲此餘も代々の集又人々の家集なとにも、これかれ見えて、そのよまれたるは皆此岩手關なり。扨松坂といへる所は、古へ關屋を建つるはかりの地にて、往還の大道なるを、我君三戸城を此不來方に移されし以後、明暦四年に、新に今の大道を通されて、古き道は止められたるなり。

○通道

凡通道は岩手里より斯波郡比爪里に通ふ、行程四里五丁。橋場驛より出羽國仙北郡

庄内驛に通ふ、行程五里廿五丁。寺田驛より二戸郡田山驛に通ふ、行程七里五丁。沼宮内皇より一戸驛に通ふ行程八里八丁。又九戸郡葛卷驛に通ふ、行程六里餘。藪川驛より閉伊郡門驛に通ふ、行程五里三十丁。築川驛より閉伊郡田代驛に通ふ行程二里三十四丁。岩手皇より斯波郡乙部驛に通ふ、行程二里三十四丁なり。

此郡中より、つくり出る雜物は、大豆・小豆・青瓜・白瓜・胡麻・黄瓢・茄子・辛の子・百合根・午蒡・赤人參・根芹・辛芥・久々多知・藍・蒜・葱・韮・麻糸・眞綿・檜・柾・檜・柾・樺皮・起炭・根花・わらびの根の粉なり。級繩・蒲行纏・釜・絹糸・つむき等なり。



# 奥々風土記　卷二

陸奥國　江刺恒久撰

## 志波郡

東は閉伊郡、南は稗貫郡、西は和賀郡、北は岩手郡につゝく、此郡名を、古書には、子波とも、斯波とも、志波とも作り、續日本紀、寶龜八年十二月辛卯の條に、初陸奥鎮守將軍紀朝臣廣純言、志波村賊、蟻結肆毒、出羽國軍與之相戰敗退云々また延曆八年、六月庚辰の條に、征夷將軍奏、彌膽澤之地、賊奴奥區、方今大軍征討、剪除村邑、餘黨伏竄、殺害人物、又子波・和我僻在深奥、臣等遠欲薄伐、粮運有艱、其從玉造塞、至衣川營、四日、輜重受納二箇日、然則往還十日、從衣川至子波地、行程假令六日、輜重往還十四日、從玉造至子波地、往還廿四日程也中略以此支度、一度所運僅支十一日、臣等商量指子波地、支度交闕云々と見えたり。

この志波村、また子波地なと有は則今の志波郡をいへり。又日本逸史、弘仁二年正月丙申朔丙午の條に、於陸奥國置和我・薩縫・斯波三郡云々また、東鑑卷九、文治五年九月四日辛酉の條に、著御于志波郡云々又同卷廿三日庚辰の條に、奥六郡伊澤・和賀・江刺・稗抜・志波・岩手かくて志波郡の、いと古くより見えたれは、既郡なることは疑なきを、延喜民部式に、陸奥の郡名を載られたる中に、志波といふ稱の見えさるは、是も上に論らふ如く眞郡にはあらされはなるへし。然れとも、神名式には、斯波郡一座に志賀理和氣神社といふあり。是は神名を載るに、その在所を慥にせんとて、土人の云傳へのまゝに、志波郡とは錄されたるにや、扨和名抄にも見えす、拾芥抄には斯波郡とありて、これより後の書籍にはみな郡名の中に漏す。後の世、志波を紫波とも作り、今俗説に紫波と作る所以は、昔いつれの時にか、志波の城の邊、北上川の水底に赤石ありて、その石の上を越る波、すなはち紫色なせり、甚奇事なりとて當時の領主志波を改て紫波と作また其石を赤石明神と崇て、志賀理和氣神の相殿にいつき奉られつとなん、是は信かたき説なり。又後世に、志波を志和と作り、こは慶長年中より誤來りしを、天保十年、吾君公儀に申上て、古例の如く、紫波に書改め賜ひつれと、猶土人は今も志和とのみ作り、そは元波へを和の如く唱ふるより書誤れるものにて、假名の違たるにも心つかす、甚妄なることを、新井君美が著せる奥劦五十四郡考に、斯波、後作志波、又作志和云々またその補遺に



廣瀬典か説に、續日本紀、延暦八年、有子波、陸奥話記、有斯和俗、或作紫波、皆以音同用之なとあるに依て其非なるをも思たとらす、今も猶志和とのみ作るは、いと〳〵慨たき事なりかし。かくては、志波郡といふ古稱の、漸にうせて、遂には此所なりと知れるものなく、古書に見えたるも、たゝいたつら言となりなまし。かへす〳〵も慨たき事そかし。

犬淵村云伊奴夫知
松本村云麻都母登今分上下二村
稲藤村（マヽ）
土舘村（マヽ）
宮手村云美夜傳
陣岡村陣字以音訓岡云袁加
郡山村云古本理夜麻
櫻町村云佐久良麻知
彦部村云比古倍
鱒澤村云麻須佐波
平澤村云比良佐波
片寄村云加余世
吉水村云余志美豆
中嶋村云那加志麻
高水寺村三字以音
二日町村云布都加麻知
日詰村云比都米今分南北二村
大卷村云於本麻伎

星山村云本志夜麻
草苅村云久佐加理
山屋村云夜麻夜
栃内村云登知那伊
黒川村云久呂加波
大萱生村云於本賀由布
舟久保村云布那久頌
北田村云伎多太
佐比内村云佐比那伊
土橋村云都知婆志
德田村云登久多今分東西二村
大田村云於本多
和味村云和美
煙山村云氣牟夜麻

犬吠森村云伊奴本延母理
長岡村云那賀宇加今分東西二村
江柄村云延加良
乙部村云於登倍
手代森村云旦志呂母理
根田茂村云禰多母
遠山村云登本夜麻
赤澤村云阿加佐波
十日市村云登袁加伊知
間野々村云阿比乃能
小屋敷村云古夜志伎
傳法寺村三字以音今分南北二村
岩清水村云伊波志美豆
室岡村云牟呂袁加



白澤村云志良佐渡
矢羽場村云夜乃波婆今分南北二村
赤林村云阿加婆夜志
湯澤村云由佐渡
羽場村云波婆
津志田村云都志太
三本柳村三本二字以音訓柳云夜那岐
藤澤村云布知佐渡

矢次村云夜都岐今分上下二村
廣宮澤村云比呂美夜佐波
飯岡村云伊比袁加今分上下二村
永井村云那加爲
見前村云美流麻閇今分東西二村
高田村云多加多

上件、六十村は志波郡中に所在村なり。

○乙部驛

○比爪里

盛岡城の正南にありて、城下より、行程四里餘あり。古書に、比爪とも、樋爪ともあり、また肥爪とも見ゆ今は日詰と作り。東鑑、文治五年九月四日辛酉の條に、著御于志波郡而泰衡親昵俊衡法師驚此事燒失當郡內比爪館逐電赴奥方云々又同月十五日壬申の條に、樋爪太

郎俊衡入道、並五郎季衡爲降人、參厨河云々又十八日乙亥の條に被奉消息於京都其狀云、比爪俊衡法師・同五郎季衡云々と見えたるは、此日詰に城を構へて、則この邊を領たりしかはその地名をとりて、比爪とはなのりたりけん。さて、此邊の地を、今は郡山といへり。そは元異名にはあらす、慶長年中、此處の城の名を更に郡山城と唱ふへくなれりしより、自然里名にもうつれるものにて、後には遂に地名の如くにもなれるものなり。

○陣岡蜂神社

宮手村にあり。東鑑、文治五年九月四日辛酉の條に、著御于志和郡中略今日二品令陣于陳岡蜂社給云々とあるは、則此御社なり。土人傳云、往昔源義家、朝臣朝敵安倍貞任等を征伐給ひし時、此處に軍兵を屯給ひて、まつその合戰の利あらんことを乞祈奉らむとして、此社は建立給ひつとなん。今この神社を八幡社なりと稱へるは誤なり。扨陣岡といへる由緣は、義家、朝臣の、此處に軍をあつめ給ひしよりの名なりと土人の云へるは、信にさもあるへし。そは賴朝卿も此處を陣場とし給ひしこと、上に標たるか如く、東鑑に見え、又同卷六日癸亥の條に、河田次郎、持主人泰衡之頭參陣岡、令景時奉之云々又七日甲子の條に、宇佐美平次政實、生虜泰衡郎從、由利八郎、相具參上陣岡云々



又十一日戊辰の條に、今日令立陣岡給云々如此こゝに八日ほとやとり給ひて、凶徒悉く平治給ひしは、專ら賴義義家の朝臣たちの、貞任等を討平給ひし時の、古例にならひて、此處にしも、陣場を定められつと見えたり。同卷、九月二日巳未の條に、出平泉令趣岩手郡手を今本に非と誤れり厨河邊給、是爲相尋泰衡隱住所也、亦祖父將軍追討朝敵之頃、十二箇年之間、所々合戰、不決勝負、送年之處、遂於件厨河柵、獲貞任等、首依襲時、佳例、到當所、可討泰衡、獲其首之由、內々令思案給云々なと見ゆ。すへて、襲祖の例にならひ給ひしこと彼書中に往々見えたれは、此陣岡は、昔義家、朝臣の軍をあつめ給ひし跡なること、決し。

○志賀理和氣神社

櫻町村にあり。いと古社にて、延喜神名式に、陸奥國斯波郡、一座に、志賀理和氣神社、また文德實錄卷四、仁壽二年八月辛未の條に、陸奥國伊豆佐咩神・登奈考志神・志賀理和氣神、並加正五位下云々と見えたるは、則この神社なり。今土人は、赤石明神ともいへり。

○稻荷神社

鱒澤村にあり。棟札に、天正十六年五月二十六日、大檀那紫波孫三郎源詮直再興、執權築田中務平詮泰と記たる今も存り。紫波孫三郎は當時志波城主にて、先祖より志波、

郡を領りしこと、下に見ゆ。

○古稲荷神社

同村にあり。上の稲荷社の舊社なり、故その因縁にて此處をは古稲荷とはいへり。又こゝより今の地に移されしも、天正年中のことなりとなん。

○牛頭天王神社

長岡村にあり。齋奉れる由緒またその年月は知れねといと古き神社なり。

○堤嶋神社

大卷村にあり。周三丁許の堤あり。その中央に嶋ありて其所に安置奉たるなれは、堤嶋とはいふなり。

○白山神社

赤澤村にあり。

○天照大神社

郡山村にあり。

○諏訪神社



走湯權現の社内にあり。賴朝卿の建立給ひし神社也と云傳ふ。

○走湯權現

○大道祖神

二日町村にあり。いと古社なり。東鑑、文治五年九月十一日戊辰の條に、今日令立陣岡給、至于今已七箇日、逗留此所給者也、而高水寺鎮守者、奉勸請走湯權現、其傍又有小社號大道祖、是清衡勸請也、此社後有大槻木二品莅彼樹下、稱奉走湯權現、令射立上箭鏑二給云々と見えたるは、則此處なり。さて走湯權現の御社は、稱德天皇の御世に經營と云傳ふ。其傍に、今も大道祖神の宮あり。是は秀衡が祖父藤原清衡の安置奉し宮にて、大なる槻木今もあり。是古への趾なるへし。又諏訪大神の宮あり。是は右大將源賴朝卿の崇祭れつる宮なりとそ。

○觀音堂

飯岡村にあり。延曆年中に建立たりと云傳ふ。

○觀音堂

高田村にあり。慶長十一年に建立たりしとそ。

○聖觀音堂

山屋村にあり。大同年中安置奉れりとそ。

○千手觀音堂

彦部村にあり。大同年中よりの御堂なりとそ。

○高水寺山號走湯山

高水寺村に、古道場なるよし、土人の云傳へたる、則この寺の跡なり。東鑑文治五年九月九日丙寅の條に、今日二品猶逗留蜂社、而其近邊有寺、曰高水寺、是爲稱德天皇勅願、諸國被安置一丈觀自在菩薩像、之隨一也、彼寺住侶禪修房、已下十六人、參訴于此旅店、事其故者、御野宿之間、御家人等、僮僕多以亂入當寺、放取金堂壁板十三枚、畢云々又同十一日戊辰の條に、高水寺、鎭守者奉勸請走湯權現云々かくて當時大寺なりしことは、今その舊跡を見ても知るゝなり。扨慶長年中までは、高水寺村に猶ありしを、今は村號にのみ遺りて、寺をは盛岡城下三割村に移されたり。今も其處に、高水寺とて猶あるは是なり。

○源勝寺山號圓峰山



往昔より土館村にありしを、慶長年中に、盛岡城下三割村にうつされたり。今も其處に猶在は是なり。

○三津石山

比爪里の正西、群山の中に立り。

○山王海山

比爪里の正西、群山の中に立り。

○吾妻根山

比爪里の正西、群山の中に拔出たる高山なり。

○志賀倉山

比爪里の正西にあり。

○毒介森

比爪里の正西、煙山村に屬り。嶺に窟あり、深淺幾許か、測しられす。其裏に白龍のすみ居て、動れは毒氣を吹出し、雲を起し、峰を覆ひて、人を登らしめす。もし强て登らんとすれは其毒氣にあたりて苦しむもの、古より往々ありき。故毒介森とは云なり。

扨其龍神を、青龍權現と稱奉りしより、惡氣漸々に起す成ゆきて、今は山上にも登得へくなりぬ。その青龍權現は岩手郡なる祇陀寺てふ寺内にいつき奉れる則是なり。

扨日てりの年、水かれて田植る業にくるしむ時は、土人此山に登りて、雨を請祈るに、忽しるしあり。又山中に池あり。周十二三里許、その池より流落る水、則數十尋の瀧となれり。此山を今俗人南昌山といへるは、元祿十六年のころ、我君思ほすことありて、改められつるよりの稱名也凡、諸山野に、所在草木禽獸は、麥門冬・百部根・蕨・五味子・白頭翁・蒼朮・桔梗・獨活・前胡・蒲萄・通草・露薯・蕷・卑解・松・杉・櫻・桑・厚朴・楢・辛夷・柿・栗・栃・山雞・鳩・雉・鶉・田鳥・雲雀・水雞・兎・狼・猪・狐・獼猴からたちの類多くあり。此餘岩手郡のところに標たるが如し。

○五内川

水源は、比爪里の西北、群山より出。東に流て北上川に入也。

○於壺川

水源は、比爪里の正西(ヽヽ)山より出。東に流て北上川に入也。

○瀧名川

水源は、比爪里の正西(ヽヽ)山より出。東に流て北上川に入なり。

○姉市川

水源は、比爪里の正東(ヽヽ)山より出。西に流て北上川に入なり。

○常川

水源は、比爪里の正東(ヽヽ)山より出。西に流て北上川に入なり。

○毒个森瀧

山のところにいへり。

○五郎沼

日詰村にあり。周六里許、沼の傍に比爪、五郎季衡の墓所あり。しるしの碑あれと、年多經つるものなれは、文字きえて今は慥に見えす。五郎沼といへるも、此碑のある故に、然名付しにや。因云、季衡は藤原泰衡か親昵俊衡か弟にて、共に此地に居住し故に比爪とは名のれるなるへし。東鑑文治五年九月十五日壬申の條に、樋爪、太郎俊衡入道、並五郎季衡爲降人、參厨河云々又同十八日乙亥、京都に奉る消息に、比爪、俊衡法師、同五郎季衡等燒比爪館、逃籠奥方候を即追繼候て、厨河と申館まて罷著候之間俊衡法師並季衡等爲降人出來候、注折紙謹進上之、其中俊衡法師者年齒高候之上、依令受持法華

經充給本住所て、所令安堵候也、其外輩皆召具て鎌倉へ可上道候云々とありて、俊衡・季衡兄弟ともに、此比爪館に住たりしを、囚人となりて季衡は鎌倉へ登たるよしに見えたり。然とも、兄の俊衡は、罪免されて、舊の住所にあらしむる趣なれは、弟の季衡も、後に猶同く赦されたるなるへし。同卷廿八日乙酉の條に、二品專敗泰衡之邊功、飽掌俊衡等歸往、漸還向鎌倉、給被召具之囚人於所處、被放免之間所殘三十餘輩也云々又十月二日戊子の條に、囚人佐藤庄司、名取郡司熊野別當蒙厚免各歸本處云々なと見えたれは、季衡も決て罪免されて、後には兄の住所に下りて、さて身罷りしなるへし。然はこそ其墓もこゝに今慥に存てはあるなめれ。

○大卷堤

大卷村にあり。周三丁許、中央に嶋あり、則上に標たる堤嶋神社なり。

○箱清水

五郎沼のあたり、大道の側にあり。松柳二株ありてその下より涌出、いかなる因緣かありけん。それ熟しれる人、今はあらされとも、古へより名高く聞えたる清水にそ有ける。暑堪かたき頃ほひには、往來の旅人、此處に立寄てみなむすはぬはなかりけり。

凡大小川沼等にあらゆる雜物は、鱣・鮒・鯉・年魚・波衣・山倍・久伎・たなこ・海老・どぢやう・鶴・雁・鴨・多加夫・鴛鴦の類多くあり。また芹・蓴菜・菱・烏芋・蓮・骨蓬・萍等生出るなり。

○志波城

比爪里に今も城跡あり。日本逸史、延暦廿二年二月癸巳の條に、令越後國米三十斛、鹽三十斛、送造志波城所云々また同年三月□□の條に、是日造志波城使從三位行近衛中將坂上田村麻呂辭見賜彩帛五十匹綿三百屯云々東鑑、文治五年九月四日辛酉の條に、著御于志波郡而泰衡親昵俊衡法師、驚此事、燒失當郡内比爪館、遂電趣奥方云々と見えたる則是なり。比爪館といへるも、此城のことにて、俊衡、季衡、兄弟住めりし處なり。天正の頃には、志波孫三郎詮直か居たる城なりしを、同十六年八月、詮直、戰に打まけて此城を立退きしかは、其後は我君信直君の所領地となれりけり。扨志波家系、猶尋標へし。

○片寄城 山地

片寄村に、城跡今も猶存り。誰人の居城か傳はらす。

○見前城 平地

西見前村に、今も城跡あり。

○長岡城 平地

大卷村にも、北田村にも城跡猶あれと、いつれならん詳ならす。志波、家臣、氏家、又太郎か守れりし城なりと土人云傳へたり。

○犬吠森城

犬吠森村に、城跡今もあり。天正年中までは、志波、親族志波、彌三郎か居たる城なりとなん。

○佐比内城

佐比内村に、城跡今もあり。天正の頃の城主は河村喜助なりとなん、是は志波家の軍師なり。

○岩清水城

岩清水村に今も城跡猶あり。天正年中までは、志波、家人、岩清水、右京義教か守りたる城なりといへり。

○乙部城



栃内村に、城跡あるは是か。慶長年中の城主は、乙部、右馬なりと云傳ふ。こは元、志波、家人なるへし。然るに天正十九年より志波・稗貫・和賀の三郡は、我君の所領地となりつれは、舊く住るまゝに、乙部城に在て、扨我君には從ひたるなるへし。

○飯岡城

上飯岡村に、城跡あり。今土人、高舘といへる處なり。是も志波、家人、飯岡、庄八なとの居たりし舊地なるへし。

○煙山城

煙山村に、城跡今も猶存り。誰人の居たりつる處なるか、今知す。

○通道

凡通道は、比爪里より稗貫郡石鳥谷、驛に通ふ、行程二里。又岩手郡盛岡、城下に通ふ、行程四里五丁。乙部、驛より稗貫郡大迫里に通ふ、行程四里廿九丁餘。又盛岡、城下に通ふ、行程二里三十四丁餘なり。

此郡内より造出るくさ〳〵の物は、疊表せんへい・おこし・この餘畑つものゝ類は、岩手郡のところに標たるが如し。

# 奥々風土記　卷三

陸奥國

江刺恒久撰

## 稗貫郡

東は閉伊郡、西南は和賀郡を限、北は志波郡につゝく、古書に、葦縫とも、部貫とも、稗抜とも作る、みな此郡のことなり。今は稗貫とかけり日本逸史、弘仁二年正月丙申朔丙午の條に於陸奥國置和我・葦縫・斯波三郡云々また東鑑卷九、文治五年九月廿三日庚辰の條に、奥六郡伊澤・和賀・江刺・稗抜・志波・岩手又同卷、十一月八日甲子の條に岩井・伊澤・柄差以上三箇郡者自山北方可遣農料和賀・部貫兩郡分者自秋田郡可被下行種子等也云々かくて、既一郡と定れるは詳に見えたるを延喜式・和名抄なと、郡名を載られたる中に、稗貫郡の脱たるは首卷に論らふ如く、是も當昔、いまた眞郡にはあらされはなるへし。拠、拾芥抄に、稗縫と

あるは、繼と縫と、草書の字体よく似たるより誤れるにて、則蓐縫郡なり。此、拾芥抄より後の書籍には、郡名の中にもるゝ事なく、何書にも見えたり。さて古は蓐縫と呼たりしを、奴比と奴伎と音の横に通ふまゝに、蓐貫ともいひつるにや。東鑑に、稗枝とありて今本に、ヒエノキと訓を付たれど、枝は決て拔の誤なれは今改めて擧つ、又部貫とあるは、比延の約り閇なれは、さもいひつへし。今も土人は、稗を閇とのみいへり。又同書に、和賀を加賀と作るも誤なれは、是も今和に改つ。

十二丁目村 三字以音訓目云米今分東西二村

川口村 云加波具知今此云里川口

万丁目村 万丁二字以音訓目云米今分南北二村

根子村 云爾古今分上下二村

西晴山村 云爾志波理夜麻

湯口村 云由具知

下澤村 云久太志佐波

圓滿寺村 三字以音共

花卷村 云波那麻伎

膝立村 云比邪多丑

大田村 今作太田共云於本多

鉛　村 云那麻理

豐澤村 云登伊佐波

久野木目村 今作椚目共云久能岐乃米



小瀨川村 云古世加波

鍋倉村 云那倍久良

臺　村 以音

湯本村 云由母登

北湯口村 云伎多由具知

松林寺村 三字共以音

長谷堂村 訓長谷云波世堂字以音

富澤村 云登美佐波

好地村 二字以音

八幡村 二字以音

中嶋村 云那加志麻今分東西二村

江曾村 云延曾

田力村 云多知加良

柏葉村 云加志波婆

狼澤村 云於伊乃佐波

金矢村 云加那夜

大畑村 云於本婆多

二牧橋村 云爾麻伊婆志

糠塚村 云奴加豆加

大興寺村 三字共以音

瀨川村 云世賀波今此云大瀨川

寺林村 云丑良婆夜志今分南中北三村

石鳥屋村 云伊志杼夜

小森林村 云古母理婆夜志

黑沼村 云久呂奴麻

葛　村 云久受

庫裡村 云久理

宮野目村 云美夜能米今此云東宮野目

飯豐村云伊比登伊今此云北飯豐
高木村云多加伎
矢澤村云夜佐波
關口村云世伎具知
五大堂村三字共以音
戸塚村云登都加
瀧田村云多岐多
大迫村云於本波佐麻
外川目村云曾登加波米
似内村云爾多那伊今分上下二村
高松村云多加麻都
幸田村幸字以音訓田云多
八重幡村云夜閇波多
猪鼻村云爲乃波那
新堀村云爾比煩理
龜个森村云加米賀母理
内川目村云宇知加波米

上件、五十九村は薄貫郡中に在村なり。

○石鳥屋驛

○花卷里

盛岡城の正南にありて、城下より、行程九里餘あり。土人傳云、往古、此邊北上川の川水、西方に寄りて流れし時、大淵あり。其岸に櫻木立繁て、暮春のころは、水上に散亂るゝ



花の、逆卷浪にそひて、流もえあへす、やゝ暫渦に卷しかは、里人花卷淵と呼へり。それ自然、村名にも負ひ、遂に此地の大稱の如くにもなれりとなん。又或は、往古、此わたり牧なり、花やかなる馬の出來つる處なれは、花牧とは名つけつといへる、そは虛說にて云にたらす。

○大迫里

盛岡城の東南にありて城下より行程七里餘あり。

○愛宕神社

花卷村にあり。

○春日神社

鍋倉村にあり。山蔭左中將の子孫、藤原爲重かいつき奉れるなりと云傳ふ。

○熊野神社

寺林村にあり。弘安三年の頃安置奉れりといへり。又此處に七社あり、是も當昔より齋奉れりとなん。その七社の神は松嶋神・若宮八幡神・稻荷神・貴船神・山王神・月山權現・辨財天なり。

○熊野神社

下根子村にあり。乾元元年の頃齋奉れりとなん。

○八幡神社

同村にあり。應永二十七年の頃齋奉れりとなん。

○田中神社

内川目村にあり。大同年中齋奉れりとそ。瀬織津姫神を令座祭れり。

○八幡神社

高木村にあり。天長年中齋奉れりとなん。

○胡四王神社

矢澤村にあり。少彦名神を齋奉れり。山蔭左中將の苗藤原爲重か建立たりし神社なりとなん。

○熊野神社

瀧田村にあり。大同年中齋奉れりとなん。

○八幡神社



八幡村にあり。齋奉りし年月はしられねといと古き御社なり。

○稲荷神

○八幡神

○嚴嶋神

鳥谷崎城内に神社あり。並相殿に令座奉れる也。

○長谷觀音堂

長谷堂村にあり。坂上田村麻呂か東征し時陸奥國中に觀音堂三箇所に建立たりしとそ。こゝは其中の一所なりとなん云傳へたる。

○不動堂

五大堂村にあり。承和年中慈覺大師か建立たりとなん。則大師の手つから造れる釋迦佛像今も猶存り。

○延壽觀音堂

鳥谷崎城内にあり。

○清水觀音堂

大田村にあり。大同年中、坂上田村麻呂か安置奉れるなりとなん。

○大日堂

湯本村にあり。嘉慶三年の頃、建たりとなん。

○觀音堂

高松村にあり。

○子安地藏堂

松林寺村にあり。嘉祥三年染殿后安產の御祈に依て、御父忠仁公六十六國に、六十六体の地藏菩薩を安置奉られつる、其一体なりとなん。然るを天文年中、火災にあひて御堂は更なり彼佛像まても、悉く燒うせつるが、其後再御堂を造營て、今の地藏菩薩を は、安置奉れりとなん。

○昌歡寺山號法音山

大田村にあり。

○松庵寺山號三寶山

花卷里にあり。永祿五年、良緣上人か所造寺なり。



○瑞興寺山號龍淵山

花卷里にあり。此寺の什物の中に、元暉が水墨繪といふ一軸あり、其裏書に、瑞興寺殿前廣門傑山英公、玉鳳妙公、爲二親令寄進平朝臣瀨川政直、應永廿四年辛酉八月三日、舌叟妙辨代とあり。

○光林寺山號林長山

北寺林村にあり。弘安三年に所造寺なり。

○大興寺山號萬疊山

大興寺村にあり。往昔、鳥谷崎の城主、稗貫家の歷代の菩提所にし在つれは、其か石碑今も三つ四つ遺れり。一無庵徹公大居士、天正三乙亥年三月十四日卒とあるは稗貫大和守賴忠かおくり名なり。

○桂林寺山號寶鏡山

大迫村にあり。昔は大迫山金藏寺といへり。大迫家の歷代の菩提所なりしとなん

○妙琳寺山號龜鉢山

大迫村にあり。此寺の什物に、阿彌陀如來眞向の像かける一軸、今もあり。其裏書に

大谷本願寺實如、文龜三年癸亥七月廿二日、稗貫郡衣更著郷、方便法身尊像截牛村奥劦願主釋妙祐とあり。

○雞頭山

大迫里の正東、群山の中に拔出たる高山なり。土人傳云、此峰に、昔より曉近くなりぬれは、夜毎に雞の鳴聲しつ、故山の名とせりとなん。

○鍋割山

花卷里の西北、群山の中に立り。

○葛丸山

花卷里の西北、群山の中に立て瀨川村に屬り。

凡諸山野にあらゆる草木禽獸は、志波郡のところに擧たるか如し。其中にも、天南星・黃蓮・獨活葛根・半夏竹節人參かたくりの類多し。又金菌・銀菌・皮菌・舞菌・いと多くあり。

○稗貫川

水源は、二水あり。一水は、大迫里の正東、閇伊郡なる早池峰山より出。一水は同郡藥師嶽より出。みな西に流て大迫里に至て、二水合、猶西に流て、八重畑村に至て北上川に入るなり。

○豐澤川

水源は、花卷里の正西、豐澤村に屬たる桂澤と云あたりの山中たり出。南に流て更に曲折て東に流、川口村に至て、北上川に入るなり。

○瀨川

水源は花卷里の西北、臺村に屬たる群山の奥より出。南に流て川口村に至て北上川に入るなり。

○葛丸川

水源は、花卷里の西北、割澤と云わたりの群山より出。東に流て八幡村に至て北上川に入るなり。

○袁加世賀瀧

花卷里の西北、臺村にあり。

○照井沼

東十二丁目村にあり。周（マヽ）慶長年中、此沼より古く氷底に沈める鐘を見出て、曳

揚たることあり。其銘の文字大方消て詳には見えねとたま〳〵殘れるは、應仁二天戊子八月十三日大旦那稗貫城主藤原千夜□(マヽ)丸と見ゆ。此鐘は元來圓滿寺てふ寺の鐘なりとなん。

○三郎堤

幸田村にあり。周(マヽ)往昔此わたりは泉三郎忠衡か所領地なり。其時造らしめたる堤なれは、則三郎堤とは云なりとなん。

凡大小川沼等にあらゆる雜物は、鮒・鯉・沼貝・田螺・年魚・山倍・久伎・たなこ・海老・まるた・鱣・どぢやう・雁・鴨・鴛鴦・多加夫・鵜・蓴菜・芹・菱・蓮の類多し。

○臺溫泉

花卷里の西北、臺村に屬たる山中にあり。涌出る所五つあり、上湯・中湯・鉢湯・宮湯・瀧湯といふ。此處に來て沐浴する人、諸病に驗を得すといふ事なけれは男女老少晝夜となく往來年中群集ふ處なり。

○志戸个平溫泉

花卷里の正西、湯口村にあり。萬病に驗あるか中に、瘡疥の類には最よし。



○大澤溫泉

花卷里の正西、下澤村にあり。

○鉛溫泉

花卷里の西北、鉛村にあり。凡て、志戸个平より以下三所の溫泉は、みな豐澤川の川邊にあり。浴する人年中絶す、ひとたひ濯は、身やはらき、再浴すれは萬病悉く消除、故貴賤となく群集て、晝夜往來やまさるなり。

○鳥谷崎城

花卷里に今もあり。里川口・南万丁目・花卷の三村にわたれり。今俗に花卷城と呼へるは是なり。往古、安倍頼時か先祖より代々居住たりし城なり。然るを康平年中の戰に、安倍家滅亡て後、清原武則その子武衡つきつきに住りしを、是も滅亡て、その後、建久年中に、山蔭中納言爲家卿の長男、中將爲重、朝臣の所領地とはなれりき。扨元龜天正の頃の城主は、稗貫大和守藤原頼忠といへり、則山蔭卿の子孫なり。(この頼忠か藝所、大興寺といふ寺にあり、天正三年に死にたりとなん。)其子、孫次郎廣忠の代に至て、天正十九年、稗貫家打滅て、斷絶つる後は、我君信直君の所領地となりて、今も此城をは、家臣に負せて守らしむるなり。

○十八个城

花卷村に今も城跡あり。山蔭中納言爲家卿の男、藤原爲重が、建久三年に稗貫郡の領主となつて、此城に居住しより、其子孫代々の居城なりとなん。扨享祿年中に、鳥谷崎城に移りて、この城をは既破壞つといへり。故今此處を、舊館とは云なり。又十八个城と作るをトヤカ城と訓誤りて後世に鳥谷崎の城のことゝ心得て、云傳へたるなり。そは兩城相並ていと近所なれは、自然に混たるものにて非なり。又十八番目の城、十七番目の城といふ說も信かたし。

○十二丁目城

十二丁目村に城跡、今も猶存り。城主の名聞えす、稗貫家人に、十二丁目主水と云ものありもしくは彼等か守りし城にや。

○寺林城

寺林村に城跡あり。

○新堀城

新堀村に城跡今もあり。稗貫家人に、新堀侍從と云人あり。彼等か守りし城にや、慶



長年中、江刺長作重隆かしばし此城を守りたるか、後に破壞て土澤城に移れりとなん。

○大迫城

大迫村に城跡あり。大迫家、先祖より、年久く住めりし城なり。天正年中の城主は、大迫右近とぬん。

○根子城

大田村に今も城跡あり。天正年中、稗貫家人根子内藏介喜氏か居住し城なりとなん。

○龜个森城

龜个森村に今も城跡あり。天正年中城主は、龜个森玄蕃といへり。

○八重幡城

八重幡村に城跡今も猶存り。天正年中、稗貫家人、八重幡美濃か守りし城なりといへり。

○似内城

上似内村に今も城跡猶あり。城主の名は知られねと、稗貫家族か住めりし跡なりとなん。

○小瀬川城

小瀬川村に城跡今もあり。稗貫家、最初此處に城を造りて居住たり。然て十八个城に移り、又烏谷崎城には移れりとなん。

○大畑城

大畑村に今も城跡あり。天正年中城主は、大畑木工允となん。

○湯口城

北湯口村に城跡今もあり。天正年中稗貫家人、北湯口伊豆か守りし城なりとなん。

○瀬川城

大瀬川村に今も城跡猶あり。天正年中城主は、瀬川隱岐守となん。

○矢澤城

矢澤村に城跡今も猶あり。稗貫爲重朝臣か弟、矢澤左近光直か子孫代々居住りし城なり。天正年中城主の名は、矢澤參河能書といへり。是稗貫家の親族なり、稗貫孫次郎廣忠は、烏谷崎城を落て此所に來て身まかりにき。則城下、東南の方に墓所あり。

○通道



凡通道は、花卷里より、和賀郡鬼柳驛に通ふ、行程三里。又土澤驛に通ふ、行程三里餘。石鳥屋驛より、志波郡比爪里に通ふ、行程二里。大迫里より閉伊郡達曾部驛に通ふ、行程二里廿二丁。又志波郡乙部驛に通ふ、行程四里廿九丁餘なり。

此郡内より造出るくさ〳〵の物は、かたくりの粉・松皮紙・疊表・傘・瀬戸燒物・木地挽物・起炭・おこし・串柿・蒟蒻・胡麻・百合根・赤人參・午房・根芹・紅花・藍・絹糸・麻糸・太布・木綿等なり。

# 奥々風土記　卷四

陸奥國　江刺恒久撰

## 和賀郡

東は閉伊郡、南は伊達堺、膽澤・江刺の二郡につゝき、西は出羽と陸奥との國堺を限りて、平鹿・雄勝・仙北の三郡にわたり、北は稗貫・岩手の二郡につゝく、古書に、和我とも和賀とも作るは、則此郡のことなり。日本逸史、弘仁二年正月丙午の條に、於陸奥國置和我・稗縫・斯波三郡云々　又陸奥話記、康平五年九月十一日の條に、正任所居和我郡、黑澤尻柵云々　東鑑卷九文治五年九月廿三日庚辰の條に、奥六郡（伊澤・和賀・江刺・稗抜・志波・岩手）又同卷十一月八日甲子の條に、岩井・伊澤・柄差以上三箇郡者、自山北方可遣農料、和賀・部貫兩郡分者、自秋田郡可被下行種子等也云々　と見えたれは、郡と定れるも近世のことにはあらぬを、是

も延喜式・和名抄なと、郡名の中に載られさるは、當昔、いまた眞郡にはあらされはなるへし。又續日本紀、天平九年四月戊午の條に、差歸服狄、和我君計安曇遣山道、並以使旨、慰喩鎮撫之、云々また延暦八年六月庚辰の條に、子波、和我僻在深奥、云々（この全文は志波郡のところに標たり。）なと見えたるはこの和賀郡に住める人の、則已か領たる地名をとりて名のりしものなり。又延喜神名式に、陸奥國栗原郡、和我神社、同國膽澤郡、和我叡登擧神社といふもあり、是は元、和我郡なる神社にて、その神靈を此處、彼處に遷して、崇祭られたりしを、舊の和賀郡なるは、漸に廢て、後世には、その跡たにしられさるなるへし。かゝる例、諸國にいと多し、さて此和賀郡も、拾芥抄より後の書籍ともには、みな漏ることなく必見たり。

南鬼柳村（云美那美於爾夜那岐ト今分上下二村）
岩崎村（云波佐伎）
山口村（云夜麻具知）
横川目村（云余古加波米）
栃内村（云登知那伊）
竪川目村（云多都加波米）
次々孫村（又作煤孫共云須々麻恭）
笹間村（云佐々麻今分南中北三村）
横志田村（云余古志太）



蕃木村（云登々能伎）
立花村（云多知婆那）
後藤村（二字以レ音）
新平村（云爾知閇伊）
長沼村（云那賀奴麻）
北鬼柳村（云伎多於爾夜那岐）
黑澤尻村（云久呂佐波志理）
更木村（云佐良伎）
上野村（云和能）
湯澤村（云由佐波）
宮田村（云美夜太）
中内村（云那加那伊）
浮田村（云宇伎太）
田瀨村（云多爾世延）
飯豐村（云伊比傳）
藤根村（云布知禰）
滑田村（云那米志太）
鳩岡崎村（云波登袁加佐伎）
江釣子村（云延都理古）
黑岩村（云久呂伊波）
二子村（云布多恭）
成田村（云那理多）
平澤村（云比良佐波）
石持村（云伊志母知）
臥牛村（云比曾宇志）
小通村（云古賀余布）
毒澤村（毒字以レ音訓澤云佐波）
倉澤村（云久良佐波）

小原村云袁婆良
谷内村云多爾那伊
舘廻村云多旦乃波佐麻
奥友村云於登母作小友誤今
成嶋村云那流志麻
十二个村三字以音
小山田村云袁夜麻太分上下二村今
川舟村云加波布禰
村崎野村云牟良佐伎能
越中畑村越中二字以音訓畑云波多
上件五十九村は、和賀郡中に、あらゆる村なり。
○鬼柳驛
上件二所は、和賀郡中の驛家なり。
○澤内里
鷹巣堂村訓鷹巣云多加須堂字以音
砂子村云伊佐碁
町居村今作町井共云麻知爲
落合村云於知阿比
安俵村二字以音
晴山村云波理夜麻
澤内村云佐波宇知
新町村云志牟麻知
藤澤村云布知佐波
大田村今作太田共云於本多
○土澤驛



盛岡城の西南にありて、城下よりの行程十四里あり。
○黒澤尻里
盛岡城の正南にありて、城下よりの行程十二里あり。東鑑卷九文治五年九月廿七日甲申の條に、黒澤尻五郎正任といふ人名の見えたるは、此黒澤尻に城を構へて居住たりしかは、則その地名をとりて名のりしものなり。今も古城の跡猶存り。
○駒形神社
駒形嶽の山上にあり。延喜神名式に、陸奥國膽澤郡駒形神社と載られたる 則此神社なり。又駒形根神と云へるも同神にや。同書に、同國栗原郡駒形根神社と見えたる、こは元來同神にて栗原郡にも安置奉に就て、負せたる御名なるへし。駒形根の根は、峯てふ言の略にて、嶽と云も同義なり。されはこの駒形神を、今土人は駒形嶽神ともいへり。扨御社は、和賀郡と、膽澤郡との堺にありて其宮修復時は、我南部と伊達と双方にて、半持分て、二十年に一遍新に必造立奉りしなり。是古よりの定例なれは今も然り。
○八幡神社

太田村にあり。古き御社なり。天正年中、太田縫殿助か、再神殿廣らにものせる由緣起に見ゆ。

○穴藥師神社

湯田村にあり。穴藥師といへる由緣は、山の尾崎、斷切たる如くなる上方に穴ありて、その裏に、鎭座しかは往古より穴藥師神社と稱奉て、以祭まつりたれはなり。さて山下は本内川の流にして、穴口までは、世人の至り不得處なれは、川を隔て、遙に恐みて、拜奉る處なり。土人傳云、雨風いたくあれて、物わびしき夜に、不慮數多の人聲して、諸山を動ませ、或人馬多く往來する者なと聞え、或白馬の、いつくよりか出來て、彼方此方駈散、或かふろ童の、彼穴口に出て、やゝ暫遊居狀なと、目前に今も見ること、時々ありとなん

○八幡神社

南鬼柳村にあり。

○白鳥神社

二子村にあり。和賀家の先祖、式部大輔忠明が、この和賀郡の領主となりて、下向れつる建暦二年三月はかり、苅田郡なる白鳥神を、此處にも遷して、朝夕の近き守神と崇祭



られたるなりと云傳ふ。

○白山神社

黑岩村にあり。養老年中、加賀國石川郡白山比咩神の御靈を遷して、此處にもいつき祭れりとなん云傳ふ。

○熊野神社

成嶋村にあり。延暦年中、坂上田村麿か安置奉るなりといひ傳ふ。

○鏑八幡神社

十二个村にあり。土人傳云、往昔康平年中、大將軍源頼義、朝臣、その子、義家、朝臣、共にこの陸奥國に下向まして、朝敵安倍貞任等を討平けんとて、岩手郡厨川城を攻給ひし時、まつ此神社に詣て、願事し給ふ。其時、白羽鏑矢十二筋、大刀一振に、願書そへて進奉れり。故その鏑矢の由緒に依て、鏑八幡とは云なりとなん。又村號も、古くは十二鏑村と稱しを、むら〳〵と、言重りて云ざまの惡かれはにや、寛文七年の頃より十二个村と唱ふる事にはなれりけり。

○觀音堂

黑澤尻村なる染黑寺てふ寺、内にあり。本尊は、金赤銅の一尺許なる觀音佛像なり。康平五年、源頼義朝臣か、朝敵安倍親族、正任か居たる黑澤尻城を討滅し給し時、新に御堂を建立て、肌守の觀音像を安置奉たるものなりとなん。

○觀音堂

山口村にあり。

○毘沙門堂

立花村にあり。嘉祥三年、慈覺大師が建立たりとなん。

○權現堂

谷内村にあり。應永廿二乙未年再興棟札今もあり。

○正覺寺 山號傳法山

南鬼柳村にあり。往昔は天臺宗にして、慈覺大師の造立なり。大師傳法山の三字を自ら書ける額を、歷世持傳たりしを、寛文年中、火災にあひて、燒失ぬとなん。其時、燒殘れる大師の所作佛像、及種々の名作物、今も猶存り。

○染黑寺 山號和賀山



黑澤尻村にあり。往昔は、禪國寺とかけり、正和二年八月十七日、觀音堂再興時、その碑今も寺、内にあり。それには禪國寺と見えたり。

○正洞寺 山號源花山

黑岩村にあり。往昔所以ありて、多田滿仲か、此寺を造らしめたりとなん。其は多田家人に、藤原仲光、その子幸壽丸と云、がありけり。滿仲か三男、美丈丸、幼稚て、死罪に定れる時、彼、幸壽丸、密に主君に代りて、討殺されき。扨後に滿仲かその密事を知り、忠なる所爲に感て、此寺は所造なりと云傳ふ。扨、幸壽丸かおくり名は、源花正洞といへるに依て、この寺、號を則、源花山正洞寺とは云、なりとなん。

○和賀嶽

澤内、里の西北、和賀、郡と出羽、國仙北郡との堺に立り。東方は、陸奥、國、西方は、出羽、國にて、兩國ともに、遙に見放られて、いと〳〵高山なり。嶺に池あり、其水干旱にもかれす、又山腹に窟あり、容易人の行べくもあらぬ處なるを、近年、樂草を取て業とする、此わたりの山賤か、彼、窟裏に入て見たりつゝとてその語を聞に、まつ穴、口よりしはしか程は行たり。いかて千尋深くとも、至留る限、見はたさてやはと心たけく思ひしかと、甚闇く

足もわなゝかれて、終に進むことを得ず、石礫を拋擲て試るに、廣く長くして、其深淺幾許か測しられすとなん。

○白木峠

澤内里の正西、和賀郡と、出羽國平鹿郡との堺にたてり。山上は通路にて、東方の麓に我南部の關所あり。越中畑といふ。西方の麓には佐竹の關所あり、小松川といふ。此通路を古へより秀衡街道と呼來れり、是は由緣あることなるへし。

○眞晝山

○女神山

澤内里の正西、和賀郡と、出羽國仙北郡との堺に立り。

○畝倉山

○明戸山

○大荒澤山

澤内里の西南、白木峠につゝきたる山々なり。凡此邊の諸山は古への銅山にて、沙金南鐐、白鑞、銅なと多に生出る處なれはそを取らんとて此彼穿たる古穴數十所にありて



山中みな蜂の巣の如なりき。所謂五金の中にたゝ鋏沙のみは欠たり、土人傳云、藤原秀衡か、陸奥國の鎭守將軍のころ、金を堀しめたる趾、今も猶存てそを秀衡堀場といふ。又金商橘次か堀しめたる趾をは、堀内と云へり。

○三俣山

○螺澤山

澤内里の正北、群山の中にあり。

○志賀來山

澤内里の正東、新町村に屬り。

○時宗寺山

澤内里の南にあり。

○天竺森

○鷲之森

○三津森

澤内里の正南、群山の中に立交て、和賀郡と出羽國の平鹿郡伊達の膽澤郡との三郡の

堺にわたれり。

○仙人峠

黒澤尻里の正西、山口村に屬し。土人傳云、往古この山に仙人すめり、故仙人峠とは云なりとなん。峰は通路なり、又道の傍に、いと古杉木あり、岩上に生立て幾年月か經たりけんいと奇き古木なり。

○駒形嶽

黒澤尻里の西南、和賀郡と膽澤郡との堺に立り。東鑑卷九、文治五年九月廿七日甲申の條に、至二于四五月一、殘雪無二消一、仍號二駒形嶺一、麓有二流河一、而落二于南一、是北上河也、衣河自レ此流降、而通二于此河一云々と見えたるは、則この駒形嶽も嶺も同義なり、今土人の呼まゝに嶽と擧つなり。群山に拔出て甚高山なり、山上に池あり、八郎沼と云。また神社あり、是則駒形神社なり。然るを神名式に膽澤郡駒形神社と見えたれは郡の違へるに似たれと、其は首卷に委く辨たるが如く、往古は膽澤郡より、奥つ方は郡郷も詳ならす、且駒形嶽は兩郡の堺に立てあれは、當時大方に膽澤郡として、載られつるものなり。又此山を今俗人は、駒迦多計と呼へり、そは古言に同音の二つ重れるは、自然約ていへる格なれは、旅人を多毘登、留



を登麻流と云、類にて、駒迦多々許の多の重れるを、ひとつ省て云へるも、猶自らの訛なり。然るを、青根之嶽、弓槻之嶽なとの之の如く意得て、今俗文字にも、然作るは誤なり。

○景政窟

湯田村なる耳取と云處の道傍にあり。土人傳云、往古、大將軍源義家、朝臣、陸奥出羽の凶徒を征伐し時、鎌倉權五郎景政、その軍兵にありて、眼に立たる鏃疵を、いたくなやめり。其時この窟に、暫宿をしめて彼眼を河水以て、しは〳〵洗ひたりき、故景政窟とは云なりとなん。

○童子峒

更木村にあり。往昔童子といへる鬼ありて、此裏に住りとなん云傳ふ。童子とは、髮生立のまゝに、わらは髮に垂たるをいへるにや、されは酒呑童子の類にて、常は山奥にかくれ居て、世人をなやましむる惡徒なるへし、それを鬼とはいひ傳へたりなん

凡諸山野にあらゆる草木禽獸は、黄蓮、石膏、蒜、蕨かたくりの類多し。此餘志波郡、稗貫郡のところに擧たるがことし。

○和賀川

水源は二水あり。一水は、澤内里の西北、和賀嶽より出。一水は、同里正北、螺澤山の東

群山より出。川舟村に至て二水合、南に流て、湯田村に至り、更に曲折て東に流、黒澤尻村に至て、北上川に入なり。扨山口村のわたり此川上に、御前潭といふあり。其處の岩に、鹽吹貝の殼多くあり、海邊にあらすしてかゝる物の、山川に生出るはいと奇事なり。又猿橋村のわたりに、辨天潭と云あり、川中に嶋ありて、松杉繁茂れり、此嶋に渡せる橋を、猿橋といふ。是所以ある事にて、村名にも負たりけん、又飯豊といふ邊に、七つ釜潭と云あり、一丈許なる瀧下に、堀井の如くなる竅七つあり。みな釜の貌なれは、七つ釜潭といへり、其深淺幾許か測しられすかし。

○夏油川

水源は、黒澤尻、里の西南、駒形嶽より出。東に流て、和賀川に入なり。

○本内川

水源は、澤内、里の正西、女神山より出。東に流て、和賀川に入なり。

○猿之石川

水源は閉伊、郡なる早地峯山より出て、南に流るまゝに、此彼の小川皆ひとつに合、大川となりて、漸に折て、和賀郡に至て西に流て、則數多の村々を經て、又いささか折て北に流、稗貫、郡、高木村に至て、北上川に入なり。此川の名を、里人の佐流賀世川といへるは訛れるものなり。

○牛具利潭

更木村と平澤村との境のあたり、北上川中にあり。土人傳云、一年牛の大暑をわびて此淵に入たりしか、終に沈みて出こす、然るを水底や潛行けん、臥牛村なる、猿之石川の川岸に揚りてひそみ居たり。故そこの村名を、比曾宇志といふとそ。されは、此淵を、は牛久具利潭と云べきを、今俗人訛て牛具利といへり。

○白糸瀧

○姥之瀧

澤内、里の正西、女神山の麓にあり。

○八郎沼

駒形嶽の山上にあり。周九里許、土人傳云、往古八郎太郎と云、杣人あり。恒の家業なれは、大方は、山中にのみ在て、日暮れは、便よき處に、假屋を造てやとれり。一日水呑んと欲て、谷に下りしかは、そこに鮒二つ居たり。則取て燒て喰たりけれは、咽頻に乾て

その谷水をは、既呑からして又沼水をも呑盡さんとす。さて水呑まゝに、巳か體は漸に蛇形と變て、果は其沼の主とそなれりける。故八郎沼とはいへり、斯て後北郡なる十和田沼に匍匐行て、そこを巳か住所として居たりしに、南宗といふ僧にやらはれて又出羽國の男鹿村に行、其わたりを湖となして、遂にそこにとゝまりたりとなん。今彼國にて、男鹿明神と稱奉れるは此八郎太郎なりとそ。

凡大小川沼等にあらゆる雜物は、鮭・鱒・須受伎・みの魚・鮎・まるた・山邊・鮑・鮒・久伎・鰹・鱚魚・たなこ・鯉・海老・沼貝・どぢやうの類多し。鳥は則、鶴・雁・鴛鴦・鴨・鶴・鵜あり、又芹・蓴・菜・菱・烏芋・蓮澤・潟等生出るなり。

○湯田溫泉

澤内里の南湯田村にあり。湯桁五箇所にありて、其名は、田中の湯・岩根湯・走湯・岩中湯・泥湯といへり。此處に來て、沐浴する人は、頭痛・眩暈・脚氣・筋痛・虚勞・瘵・腎虚・腰痛・耳聾・疥癬・結毒・癩疾・諸惡瘡等の病悉く驗あれは男女老少群集て、春秋絶ることなし。

○湯賀溫泉

同村にあり。湯田溫泉の近邊なれは、此處に來て、浴する人少し。



○夏油溫泉

黑澤尻里の西南、駒形嶽の麓にあり。土人傳云、往古白猿の巳が族數多ゐて來て、此湯をつくれり。故白猿溫泉ともいふ。又今俗人は、雄駒溫泉ともいふめり。（雄駒と呼は、誤なること、岩手郡雄駒嶽の處にいへり）さて湯性は、熱くも、冷くもあらす最よきほとにして、所有溫泉に勝たれは、此國中は、又となき最上の溫泉なりとそ云なる。男女老も少も、一度濯は身體やはらき再浴すれは、萬病悉く消除、古より今にその驗あらさるはなし。然とも、山深く分入て、容易からぬ處なれは、此所に來て、浴する人多からす。

○岩崎城

岩崎村に今も城跡あり。天正年中和賀家人、岩崎孫十郎義高か守れる城なり。慶長十六年の頃、和賀主馬忠親か、敵なふこゝろを發し、軍兵を集て、吾利直君と、合戰たりし時、此所を彼か本城とせし處なり。

○須々孫城

須々孫村に城跡あり。天正年中、和賀家族、須々孫上野義重か居たりし城なり。

○鬼柳城

南鬼柳村に城跡今もあり。天正年中、城主は、和賀家族鬼柳伊賀守、となん、其か墓所は今も城の東方に猶あり。

○飯豐城

飯豐村に城跡あり。誰人の居たりし跡かしらす。

○江釣子城

江釣子村に今も城跡あり。天正年中、和賀家人、江釣子民部か守りし城なり。

○轟木城

轟木村に城跡今もあり。天正年中、和賀家人、更木兵庫か守りし城なり。

○二子城

二子村に今も城跡あり。和賀家の先祖より、歴代居住りし城なり。先祖は、右大將頼朝卿の御子にて、式部大輔忠頼といふ、最初しはしの間は、苅田郡に住れたるかその子式部大輔忠明の時、建保年中に、和賀郡の領主となりて、此處に下向れたり、其時新に此城は造營といへり。さて其子孫つき〳〵に、年久しく住居たりしに、忠明より十五代の孫天正年中、和賀薩摩守義治の時に、滅亡たりとなん。扨義治か三男、和賀主馬忠親、



は、後に、岩崎城にこもりて軍を起せるなりそは慶長十六年のことなり。

○黒澤尻城

黒澤尻村に城跡今もあり。陸奥話記、康平五年九月十一日の條に、武則拜謝、即襲二正任一、所居和我郡、黒澤尻柵、拔之、所射殺賊徒三十二人、被疵逃者、不知其員云々と見えたるは此城のことにて、安倍貞任か弟、黒澤尻五郎正任が居住たりし城なり。扨其後は、誰人か居たりけん、傳へなけれは知らす。

○立花城

立花村に城跡今もあり。土人傳云、多田滿仲か家人、藤原仲光此處に下向し時、しはし居住たる處なりとなん。

○黒岩城

黒岩村に今も城跡あり。天正年中、和賀薩摩守義治が長男、主殿、元來盲目なれは、和賀家を繼すして、月齋と名のり、此城に住りとなん。

○更木城

更木村に城跡猶あり。和賀先祖忠明、最初、苅田郡より移りて、まつ此城に在、さて二子、

城を造營て、そこには移れるなり。

○土澤城

土澤驛にあり。江刺長作重隆か經營城なり。江刺家は元來江刺郡岩谷堂の城主にて、數年來、彼所に居住たりしか、天正十八年、兵庫頭重恒の代に、彼城より落來て、我信直君に從ひ、文祿・慶長の間、稗貫郡新堀城に在て家人をは江刺郡の堺所々のおさへの城に置たり。扨重恒か男、江刺長作重隆か代に至て、我南部家臣となり、かの新堀城をは破却て、慶長年中新にこの城を造營て移れるなり。其子孫つき〳〵に、久しく居住來りしを、近年それもやぶりたるなり。

○小山田城

小山田村に今も城跡あり。稗貫家先祖爲重朝臣か弟彦九郎爲直より、其子孫つぎつきに此城に居住たりとなん。天正年中、城主は小山田五郎左衞門といへり。

○晴山城

晴山村に城跡今もあり。和賀家人晴山隼人か慶長年中まて居たりし城なり。

○安俵城



安俵村に今も城跡あり。天正年中和賀家人、安俵玄蕃重義か守りし城なり。

○毒澤城

毒澤村に城跡今も猶あり。和賀家族、毒澤伊賀か慶長年中まて居たりし城なり。

○田瀨城

田瀨村に今も城跡あり。慶長年中まて江刺家人小田代肥前か守れる城なり。

○越中畑堺關

越中畑村にあり。出羽國平鹿郡小松川村に往來道なり。

○鬼柳堺關

鬼柳驛にあり。伊達の膽澤郡金之崎驛に往來、所謂奥街道なり。

○宿立堺關

立花村にあり。江刺郡岩谷堂里に往來道なり。

○保木乃木堺關

黑岩村にあり。同郡柳木田村に往來道なり。

○溜風堺關

浮田村にあり。同郡上口内村に往來道なり。

○道地堺、關

倉澤村にあり。同郡野手崎村に往來道なり。

○高屋敷堺關

田瀨村にあり。同郡野手崎・人首の二村に往來道なり。

○通道

凡通道は、川舟村より岩手郡南畑村に通ふ、行程四里餘。鬼柳驛より膽澤郡金之崎驛に通ふ、行程三里。又稗貫郡花卷里に通ふ、行程三里。土澤驛より、閉伊郡下宮森驛に通ふ、行程三里餘なり。

此郡内よりつくり出せる雜物は、胡麻・百合根・午房・赤人參・根芹・紅花藍・干田螺・起炭・疊表・串柿・蒟蒻・おこし・根花・絹糸・眞綿・紙等なり。



# 奥々風土記卷五

陸奥國　江刺恒久撰

## 閉伊郡

東は大海を限、南は伊達堺、氣仙・江刺の二郡に續き、西は和賀・稗貫・志波・岩手の四郡にわたり、北は九戸郡につゝく。此閉伊郡は、いつの頃よりか、郡とはなれりけん、古書に見えされは、知へきよしもなし。扨閉伊は、元來村名なりしを、後に郡名とはなれりしなり。續日本紀、靈龜元年十月朔乙卯丁丑の條に、陸奥國蝦夷中略須賀君古麻比留等言、先祖以來貢獻昆布、常採此地、年時不闕、今國府郭下、相去道遠、往還累旬、甚多辛苦、請於閉村便建郡家、同於百姓共率親族、永不闕貢、並許之云々日本後紀、弘仁二年三月甲寅の條に、去二月奏倆請發陸奥出羽兩國兵合二萬六千人征、爾薩體・幣伊二村者云々また七

月丙午の條に、以浮軍一千人、委吉彌候於夜志閇等、可襲伐幣伊村、彼村俘黨類巨多、云々

又同辛酉の條に、出羽國奏邑良志閇村降俘吉彌候部都留岐申云、已等與貳薩體村夷伊加古等、久搆仇怨、今伊加古等練兵整衆、居都母村、誘幣伊村夷、將伐已等、云々かくて閇伊はみな、村號にのみ見えたり。其村號の後に郡名にもなれるものなり。凡てもとは狹き名の後に廣くなれる例いと多し。そは出羽・加賀なとも元來郡名なりしを、則國號としもせられしこと、國史に見え、又和泉國・和泉郡・和泉郷・駿河國・駿河郡・駿河郷・出雲國・出雲郡・出雲郷・安藝國・安藝郡・安藝郷・土佐國・土佐郡・土佐郷・大隅國・大隅郡・大隅郷なとも皆元は郷名なるが郡名にもなり、遂には一國の名にもなれりしものなり。かゝれは此閇伊郡も元は村號より轉て郡名にもなれること疑なし。二の卷の志波郡も、元來志波村より轉れる郡名にて、ここと全同類なれは、考合せて曉へし。かゝる例諸國に多かり。

因云往古は閇とのみいへりしを、今閇伊と二字に書ことは、紀伊國の類にて、引聲の伊字を加へて、二字としたるもの也といへる説は信かたし。紀伊國の伊字、また遠江の渭伊郷、出雲の斐伊郷、肥後の肥伊郷なとの伊はみな、キシチニヒミイリキの韻音の字を添たるものにて、是は論ひなきを、閇伊の伊字は其例にあらす。若其例の如くならんには、閇の韻音は延なれは、備中の弟翳郷、薩摩の穎娃郷なとの例の如く、閇延とこそ云べきを、日本後紀に、幣伊と作、今俗にも閇伊と唱へつれは、是は決て引聲の伊字を添たるにはあらず。紀伊國の類とは大異なるをや。扨また續日本紀に、閇村とあるは、伊字を脱せるなるへし。

達曾部村（云多都曾部）　米田村（云麻伊多）
宮森村（云美夜母理今分上下二村）　塚澤村（云都加佐波）
鵤崎村（云美佐佐伎）　釜石村（云加麻伊志）
綾織村（云阿夜於理）　鱒澤村（云麻須佐波）
奥友村（云於登母今作小友誤）　山屋村（云夜麻夜）
平清水村（云比良志美豆）　板澤村（云伊多佐波）
平原村（云比良乃波良）　切懸村（云伎理加氣）
來内村（二字以音）　平倉村（云比良久良）
大寺村（云於本傳良）　中澤村（云那加佐波）

青笹村云阿袁佐々
羽根通村云波禰登本志
松崎村云麻都邪伎
本宿村訓本云母登宿字以音
糠前村云奴加麻閇
佐比内村云佐比那伊
柏崎村云加志波邪伎
駒木村云古麻岐
附馬牛村云都久麻宇志
東禪寺村三字共以音
甲子村二字以音
箱崎村云波古賀佐伎
片岸村云加太伎志
橋野村云波能志

横田村云餘古太
新里村云爾比佐登
土淵村云都知夫知
五日市村云伊都加伊知
細越村云本曾古延
上山口村云加美夜麻具知
柏崎ノ片岸村云加太伎志
栃内村云登知那伊
妙泉寺村三字共以音
濱釜石村云波麻加麻伊志
兩石村兩字以音訓石云伊志
鵜住居村云宇乃須麻比
栗林村云久理波夜志
大槌村云於本豆知



小槌村云古豆知
赤羽根村云阿加婆禰
嬉石濱村云宇禮伊志波麻
平田ノ白濱村云志良波麻
水海村云美豆宇美
桑野濱村云久波能波麻
室濱村云牟呂乃波麻
赤濱村云阿加波麻
田野濱村云多能波麻
大浦村云於本宇良濱村より以下十六村上件嬉石濱村は、猶よく尋て決むへし。處もあり、
金澤村云加禰佐波
舟越村云布那古志
轟木村云登々乃伎

平田村云閇伊多
新屋村云阿良夜
松原村云麻都婆良
佐須濱村云佐須波麻
箱ケ崎ノ白濱村云志良波麻
苅宿村云加理夜抒
安渡村二字以音
波板村云那美伊多
小谷鳥村云古夜登理
大澤ノ山屋村云夜麻夜
吉理々々村云伎理伎理
織笠村云於理加佐
飯岡村云伊比袁加

これは、いまだ考およはさるへし。

山田村 云夜麻太

津輕石村 云都賀流伊志

音部村 云於登倍

豐間根村 云登余麻爾

八木澤村 云夜岐佐波

花和村 云波那和今作花輪

松山村 一字麻都夜麻

千德村 二字以音

金濱村 云加爾波麻

高濱村 云多賀波麻

鍬崎村 云久波賀佐伎

崎山村 云佐伎夜麻

小國村 云袁具爾

花原市村 云氣婆良伊知

大澤村 云於本佐波

重茂村 云於母伊

赤前村 云阿加麻閇

荒川村 云阿良賀波

近內村 云知加那伊

小山田村 云古夜麻太

長澤村 云那賀佐波

磯鷄村 訓磯云曾鷄字以音

宮古村 云美夜古

黑田村 云久呂太

山口村 云夜麻具知

老木村 老字以音訓木云伎

田鎖村 云多久佐理

根市村 云爾伊知



引目村 云比伎米今作蓁目

古田村 云布都多

川井村 云加波爲

門馬村 云加都麻

平津戶村 云比良都登

藤畑村 云布遲波多氣

川代村 云加波志呂

千鷄村 訓千云知鷄字以音

小角柄村 云古都乃賀良

鵜磯村 云宇伊曾

追切村 云於比伎理

田名部村 云多那夫

石峠村 云伊志多宇氣

神林村 云加牟波夜志

腹帶村 云波良多伊

茂市村 云母伊知

片巢村 云加多須

門馬ノ田代村 云多志呂

江繫村 云延都那岐

拂川村 云波良比加波

石濱村 云伊志波麻

姉吉村 云阿爾余志

荒卷村 云阿良麻伎

閇伊崎村 云閇伊乃佐伎

堀內村 云本理那伊

長內村 云袁佐那伊

磯鷄ノ白濱村 云志良波麻

大田濱村 云於本多乃波麻

小田濱村云古多乃波麻
大澤村云於本佐波
大附村云於本都氣
牛臥村云宇志夫志
樫内村云加志那伊
青瀧村云阿袁賀多岐
小堀内村云古本理那伊
小成村云古那理
中野村云那加能

上件藤畑村より以下三十四村は、猶よく尋て決むへし。

箱石村云波古伊志
夏屋村云那都夜
田代村云多志呂
多老村云宇以音

藤原村云布遅波良
秀嶋村云比傳志麻
古里村云布流佐登

根城村訓根云禰城宇以音
小湊村云古美那登
大堀内村云於本理那伊本
水澤村云美都佐波
茂師村云母志



鈴久名村云須々久那
川内村云加波宇知
末前村云須恵麻閇
乙部村云於登倍

攝待村二字以音今分上下二村
中嶋村云那加志麻
乙茂村云於登母
二双石村云爾曾宇伊志
岩泉村云夜伊豆美
釜津田村云加麻都多
苅屋村云加理夜
鼠入村云曾伊理
猿澤村云佐流佐波
机村云都久惠
切牛村云伎理宇志
黑崎村云久呂佐伎
力持村云知加良母知

上件羅賀村より以下九村は、猶よく尋て決むへし。

小本村云袁母抒
袰野村云本呂能
中里村云那加邪登
尼額村云阿麻毘多比
大川村云於本加波
和井内村云和爲那伊
淺内村云阿佐那伊
有藝村云宇氣伊
羅賀村云良賀
北山村云伎多夜麻
嶋野越村云志麻能古志
大田名部村云於本多那倍
白井村云志良爲

裹綿村云本呂和多
門村云加抒
濱岩泉村云波麻夜伊豆美
沼袋村云奴麻乃布久呂
堀内村云本理那伊
安家村云阿都加
穴澤村云阿那佐波
田野畑村云多能波多
尾干要村訓尾云袁干要二字共以音
普代村二字以音
萩牛村云波岐宇

上件百九十村は閉伊郡中に所在村なり。

○達曾部驛
○山田驛
○津輕石驛
○門馬驛
○川内驛
○川井驛
○腹帶驛
○釜石甲子驛
○豐間根驛
○田代驛
○平津戸驛
○箱石驛
○古田驛
○茂市驛



○引目驛
○田鎖驛
○門驛
○岩泉驛
○普代驛
○大芦驛猶尋ぬへし
○崎山驛
○根城驛
○千德驛
○裹綿驛
○安家驛
○田野畑驛
○小本驛
○下宮森驛

上件二十八所は閉伊郡中の驛家なり。

○横田里
盛岡城の東南にありて城下より行程十五里七丁餘有。
○大槌里
盛岡城の東南にありて城下より行程二十八里三十丁餘あり。
○宮里古
盛岡城の正東にありて城下より行程二十六里九丁有。

○早池峯山神社

早池峯山にあり。既大同年中よりありつる神社なり。祭神は、岩手郡なる姫神嶽のところに委く云へるか如く、八上比賣命か、沼河比賣命か、其二神のうちなるへけれと、傳なけれは今詳には知れす、後世の佛意の説は云っにたらす。

○白鬚神社

早池峯山の山中、川原坊と云處にあり。寶治元年六月の頃、雨降つゝきて、此邊の川々大洪水れり。當時髮鬚眞白なる翁、丸木に打乗て水上より流來て云けらく、我は白鬚水の翁なりと告給へり。故白鬚大神と美稱て、妙泉寺てふ寺の鎮守に崇奉れりとなん。

○早池峯新山神社

妙泉寺の近邊にあるへし猶可尋。

○早池峯山神社

門馬村にあり。上古よりの御社なり。

○早池峯新山神社



門馬村にあり。古社なり。天文四年の棟札今もあり。

○黒森神社

宮古村にあり。祭神知す、土人傳云、坂上田村麻呂か建立給ひし神社なりとなん、いと古社なり。幣代を入る器に、建武二年に造れることを、左文字に彫たるあり。また貞治四年に造れる鐘あり。我君政行君の再興給ひし應安三年の棟札あり。八幡宮は當時相殿に安置奉られし由なり。此に依て今黒森八幡とも稱り。又俗人黒森觀音といへるは非なり。そは俗説に、此黒森觀音は推古天皇の弟親王罪ありて、閉伊浦に配流遂に此處にて卒去給ひし故に、其遺骸を黒森山に葬奉り、則觀世音に稱奉れる也といふ説あり。こは據もなき妄言にて、云にもたらぬ事なりかし。末社に觀音堂稻荷宮、辨天堂、虛空藏堂、一の王子、二の王子、三の王子なといふあるは、皆後世に佛になつみて、造立たる宮なり。

○白山神社

津輕石村にあり。應永六年に奉請れりとなん。

○白山神社

某村遠野にあり。應永十八年に奉請れりとなん。

○横山八幡神社

宮古村にあり。上古よりの御社なり。

○八幡神社

小槌村にあり。天正十七巳丑年に奉請れりとなん。

○白山神社

八木澤村にあり。慶長二十乙卯年三月再興棟札あり。

○尾崎神社

平田村にあり。土人傳云、祭神は倭建命なり。往古より御舍もなくて、いと古劍のひた土にさし立たるあり。則神躰として齋奉れり。扨後世に、鎭西八郎爲朝の三男、嶋冠者爲頼この閉伊郡の領主なるか、永久此地にとゝまりて、海上の守護神ともなりなんとて、死て後も、奇端の顯つること往々あり、故則爲頼か神靈をも齋奉れりとそ。御社に、いと年經たる白藤のあるは當時所以ありて、彼子孫、殊更に殖立つるものなるか、今にその根纔に遺れりとなん。扨釜石浦に御旅所あり、是は元祿十二年のころ所造



なり。

○熊野神社

橋野村にあり。慶長十八年に奉請れりとなん。

○江繫神社

江繫村にあり。天長六年の頃、この閉伊郡内に、同御神を七所に安置奉れる、其一社なり。今俗七所明神と唱ふるは是なり。扨其七社の内小槌神社・一の宮神社・此神社の三所のみありて、餘の四所は、既絶果つるにや、又は他神の御社ともなれりしにや、今詳には知れず、さて祭神も知す。

○新山神社

小國村にあり。大同年中、齋奉れりとなん、早池峯新山の神社なるへし。

○貴布禰神社

苅屋村にあり。棟札に、文治元年四月、田久佐里三郎右衞門再興、應永三十年六月、前周防守光芳建立文明十四年三月、小山田近江守源信光建立、天文十一年、苅屋左馬之助源朝臣光行建立、としるしたる、其時々の棟札四枚あり。又永正十八年辛巳十一月九日

小山田行光同光信と彫付たる古獅子頭あり。

○熊野神社

千德村にあり。いと古社なり、慶長十七壬子年四月、櫻庭阿波直綱再興としるしたる棟札あり。

○八幡神社

綾織村にあり。元暦年中に奉請(マセ)れりとなん。

○六角牛山神社

某村遠野にあり。

○小槌神社

小槌村にあり。天長年中に奉請れりとなん。閇伊郡中七所明神の其一社なり。

○羽馬山藥師神社

豐間根村にあり。上世よりの御社なり。

○鳩八幡神社

苅屋村にあり。天正年中奉請れりとなん。



○熊野神社

袰野村にあり。弘治年中の棟札あり。

○一の宮神社

田鍬村にあり。天正年中の棟札あり。所謂七所明神のその一社なり。

○加茂神社

引目村にあり。いと古き御社なり。文明年中の棟札あり。

○熊野神社

末前村にあり。昔甲斐國より遷奉(ウツシマツ)れるよし云傳ふ。

○珊瑚嶋神社

大槌湊に珊瑚嶋といふあり。其嶋に宇賀神をいつき奉れる則是なり。今俗珊瑚嶋辨天といへるは誤なり。

○新山神社

花和村にあり。いかなる神を齋奉れるかしらす。

○鞍馬山毘沙門堂

豐間根村にあり。上古よりの御社なり。いと古き鰐口あり。其銘に、勝寶庚寅年三月三日、聖武帝御願所、孝謙天皇御建立也と彫付たるあり。

○羽黑新山權現堂

小槌村にあり。出羽國羽黑權現を安置奉れりとなん。古き獅子頭に、永祿六年と彫付たるあり。

○羽黑新山堂

松山村にあり。慶長元年十一月再興と記たる棟札あり。

○羽黑堂

千德村にあり。天文八乙亥年三月再興としるしたる棟札あり。

○羽黑新山堂

穴澤村にあり。元龜壬申年穴澤村領主工藤伯耆建立となん云傳たる。

○新山權現堂

某村にあり。天文二十一年三月としるしたる棟札あり。

○羽黑堂



岩泉村にあり。應永三十年三月再興と記たる棟札あり。

○正觀音堂

津輕石村にあり。本尊の脊方に四國沙門、阿劦之產宥直、文明十四年彫刻とあり。

○大宮觀音堂

崎山村にあり。往古甲斐國より遷奉れるよし云傳ふ。

○妙泉寺山號早池峯山

某村にあり。岩手郡加賀野村なる、妙泉寺の本つ寺にて、則早池峯山の神事を、主とする寺なり。凡て同稱の寺、三所にあり。某村にあるを、遠野妙泉寺と云ふ、岩手郡にあるを、加賀野妙泉寺といふ、此處を嶽妙泉寺と云なり、古より皆早池峯山の神事に預れり。此寺の什物の中に、四角始とも書閣藤藏といへる、來内村の獵人か持たる古き短刀あり、此は此山に由緣あるもの也。

○妙泉寺山號同前

某村にあり。上にいへる遠野妙泉寺是なり。

○東禪寺山號大寶山

某村にあり。猶よく尋て標すへし。

○大勝寺 山號金澤山

金澤村にあり。我君守行君の菩提所なり。永享九年四月九日、此地に在て身まかり給ぬ。則葬まつりて、此寺を所造なり。法名は大勝院祖山禪高と申せり。

○花嚴院 山號峒澤山

花原市村にあり。鎭西八郎爲朝か三男嶋冠者爲賴か造れる寺なり。寺號は亡父の法名華嚴院持劍法空大貴士と云るを取て、號たりとなん。

○瑞雲寺 山號龍谷山

津輕石村にあり。越前國、永平寺輪番の寺なり。

○常安寺 山號宮古山

某村にあり。

○長根寺 山號玉王山

千德村にあり。此寺の什物の中に、高野大師かみつから不動尊の像かける一軸あり。

○早池峯山



横田里の西北、閉伊郡と稗貫郡との堺に立り。諸山に拔出ていと高山なり。東北の方はあくまて、群山に續けり、此山に登りて遠望渡すに、出羽・陸奥・常陸等の國々は、たゝ廣野の如し。されと、遠鏡もて熟見れは、高山のかきりは遠近に著明し、其諸山は松前の繪山嶽・津輕の岩城山・出羽國の鳥海山・また雄鹿山・伊達の黑川郡なる七つ森・また室根山・常陸國の筑波山・我君の所領國中には岩手山・姫神嶽はさらなり、北部の釜伏山・鹿角郡の五宮山・岩手郡の雄駒嶽・志波郡の吾妻根山・和賀郡の駒形嶽・閉伊郡の六角牛嶽・砥森山等みなよく見えたり。扨嶺上に池あり、其水早魃の時もいさゝかも乾氣なく又霖雨にも水かさ增す、甚靈池なりけり、又山脊に瀧あり。

○兜嶽

宮古里の正西、田代村に屬り、今俗人、甲明神といへる山是なり。則神社あり、扨遠く振放見るに、兜の貌なれは、山の名には負たりけん。

○松草山

宮古里の正西、門馬村につけり。

○砥森山

横田里の正西、下宮森村の近邊の高山なり。

○護摩堂山

横田里の（マヽ）嶺に大瀧あり。

○五輪峠

横田里の西南、閇伊郡と伊達の江刺郡との堺に立り。此山の嶺上を經て、伊達の人首里に通ふひとつの大道也。南方の山下に、伊達の關所あり（マヽ）といふ、北方には我南部の關所あり、鮎貝といふ。

○荒谷山

○赤埴山 今云赤羽根

○長野山

この三つの山は横田里の正南、閇伊郡と伊達の氣仙郡との堺に並立てあり。

○蜈蚣山

○貞任山

横田里の（マヽ）



○六角牛嶽

横田里の正東、群山の中に立て、此邊の高山なり。

○仙人峠

横田里の正東、群山の中に拔出て、いと高山なり。此嶺を經て、東海邊に通ふ、上り下り共いとさかしき坂路なり。故に往來の人、いたく苦む故に、嶺上に至れは必休息ふめり、東方に海原はるかに見放られて、えもいはんかたなき峠なり。又義經の腰掛石といふあれと、如何なる由にか、眞僞明ならす。

○中山

横田里の正東にあり。此山上を經て、大槌里に通ふ行程六十餘里の間、人家ひとつも無し往來の人やすからぬ處なり。

○橋野山

○栗林山

大槌里の正西群山の中に立り。昔鐵堀出たる山なりとなん。

○小國山

○江繫山

大槌里の西北、群山の中にあり。

○恩德山

○龍丸山

大槌里の（マヽ）にあり。山腰のわたりに、三方に分るゝ道あり。南は横田里、東は大槌里、北は河合村に往還なり。

○石塚峠

大槌里の正南、閇伊郡と伊達氣仙郡との堺にあり。嶺上は、氣仙郡に通ふ道なり、山南に伊達の關所、唐丹といふあり、北は我南部の關所、平田といふあり、共山下の村に屬てあり。

○尾崎山

大槌里の正南、平田村につけり。大海に突出たる崎なり。故尾崎とはいふなり、山上に神社あり、松杉繁茂れり。

○鳥谷坂



大槌里の正南、濱釜石村に屬たるうゝらをりの山坂にて、則東海邊の大道なり。往來の人、大困む坂路なり。

○御廟坂

大槌里にあり。

○箱崎山

大槌里の正東、箱崎村にあり。細く長く大海にさし出て、たゝ南方のみ、纔に陸につゝきたる地なり。遠望れは嶋山の如し、猪鹿多し。

○金澤山

大槌里の正西、金澤村につけり。織笠川の水原なり。

○大鯨山

○小鯨山

大槌里の正北にあり。兩嶽相向立たるその中を往來ふ、海邊の大道なり。土人傳云、昔大津波の時、雌鯨雌鯨二つ、潮のまに〳〵寄來て、此兩嶺にとゝまれり、故山名には負りとなん。

○吉利々々山

大槌里の北、吉利々々村にあり。

○四十八坂

大槌里の正北、吉利々々村と、舟越村との中間にあり。海邊の大道にて、大小坂許多なれは、往來の人甚く困しむ通道なり。

○大浦山

大槌里の東北、大海に突出たる高山なり。山の南は山田湊の入海なり。

○大澤山

○掬峠

宮古里の南、豐間根村につけり。兩嶺相並て立り山上は海邊の大道なり。

○羽山

宮古里の南、豐間根村にあり。山上に池あり、昔此池に龍神のすみ居て、恒に雨雲たえす、動れは大雨をふらしき、故小祠を建て、鎮め奉しとそ、今も山上に社あり。

○鞍馬山



宮古里の南、豐間根村にあり。山上に毘沙門の社あり。

○一本鎗山

宮古里の西南、荒川村につけり。山の貌、ひとり突出て鉾先の如し、故一本鎗山とは云なり。

○石峠

○瀧澤山

○白根山

宮古里の南にあり。石峠の山中、海邊の大道なり。

○登騰山

宮古里の南、重茂村にあり、山中に窟あり。

○白濱山

宮古里の東南にあり。入海を隔て高濱村に屬り。月山・赤前山に接たる山なり。

○月山

宮古里の東、入海を隔て某村にあり。山の東方は大海、西方は宮古湊にして見るめも

いとよき山なり。海原かゝやきて、波間より出來る月の、彼山に榮登る貌えもいひしらすなん。又沖漕わたる船人の、此山を目當として、船泊ん處を測れりとなん。

○臼杵山

宮古里の東、鍬崎村にあり。宮古湊の北面を塞く斗に、大海にさし出たる山にて、所謂屏風を立たるか如し。東南北の方、みな大海にて、唯西方のみ陸地につゝけり、老松多く生茂れり。

○横山

○黒森山

宮古里の西北にあり。兩山ともに、山上に社あり、松杉繁茂。

○門上山

宮古里の正西、根市・花原市の二村の堺に立り。

○長澤山

宮古里の西南、長澤村につけり。某川の水源にて、左右に流出、此を北の又、南の又といふ。東南西、みな群山に接り。

○狗婁尊山

宮古里の西、牛臥村に屬り。群山に拔出て、甚高き山なり。形狀は瘦馬の脊の如くにして、嶺上に又奇き岩あり、假令は、兜の上に、いと長き竹竿を指立たるか如し、是を狗婁尊嚴といふ。土人傳云、此岩昔はやゝ長かりしを、高行天狗のかけりさはりて、蹴折て左右の谷底に落しつとなん。故其折たる岩、今も谷底に存て著明し。又山中に鏡岩といふあり、物の色よく照映りて、鏡の如くあきらかなり。禽獸の族、この鏡岩の邊に至れは、巳か影の、岩面に映るを見あやしみて、忽に逃去となん。高さ一丈餘横二丈餘あり、何時の頃にかありけん、野火のために、岩面燒薫りて、今は黑漆もて塗たるか如し、然れとも、物の色、照映る事は猶變らすいと奇き岩なりけり、所謂近江國の、石山寺の鏡石も是にはしかすとなん。

○宮古舟山

○蕨澤山

宮古里の正西、腹帶村に屬たる山の奥にあり。

○前苅山

宮古里の正西、某村につけり。山中一方の通路にて、閉伊川の水増れる時は此山路を往來ふなり。いとさかしき道にて廿八里ほとあり。

○鈴久名檜山

宮古里の西、早池峯山につゝきて、群山の中にたてり。

○榊山

宮古里の正西、鈴久名村につけり。

○大峠

○小峠

宮古里の正西、川内村と平津戸村との中間に立り。此嶺を經て、盛岡の城下に通ふ大道なり。九折坂路にていとくるしき地なり。

○猿老舞山

宮古里の正西、刈屋村につけり。山中に往還道あり、閉伊川洪水時は、此山路を往來なり、行程三十里餘あり。

○倉澤山



○麻古呂志山

○北山

宮古里の正西、刈屋村にあり。

○十塚山

○湯澤山

宮古里の正西、和井内村につけり。

○雄鹿戸山

宮古里の西、群山の中に立り。此嶺上則大道にて數十里の間いたく難所なり。

○鎌津多山

宮古里の西、群山の中に立り。山の南は、田代村・門馬村、西は岩手郡藪川村・米内村に接けり。嶺上は岩手・閉伊二郡の堺なり。

○布旋个無山

宮古里の西北、大川村と、袰綿村との中間にあり。山上則大道にて、往來人昇降いたく苦む所なり。

○兜嶽

宮古里の西、鎌津多村につけり。群山に抜出て、最大なる高山なり。此兜嶽は東面に向ひ、田代村なるは西面に向ひて、兩峯表裏に立り。間遠からぬ地に、如此同名の且同狀なる山の並立るは、緣ある事なるへし。

○時宗山

○石嶺山

宮古里の西にあり。

○級坂

○笹平山

宮古里の西北、田代村につけり。二山ともに、嶺は通路也、笹平山は、昔鐵堀出たる山なり。

○龜ヶ森

宮古里の西にありて、いと高山なり。山下に昔銅堀出たる遺跡あり。

○人迷嶽



宮古里の西北にありて、龜ヶ森と相對て立り。諸木いと深繁茂たる山なれは、此山中に入りては、仙人の族たに、必出口を失ふとなん、故山名には負へるもの也とそ。

○桐木峒

宮古里の西、腹帶村にあり。此嶺上、盛岡の城下に往來大道なり。

○有藝峠

○待敷坂

○女遊坂

○橡木坂

宮古里の正北にあり。みな海邊の道次にて、往還の人、いたく苦む斗の坂路なり。

○乙部坂

○大埣内

○小埣内

宮古里の正北、乙部村につけり。みな嶮き坂路なり。

○南大嶽

○北大嶽

宮古郡里の正北、攝待村につけり。村の前後に對立(ムカヒタチ)り、嶺上則大道にて、上(ノボ)り下(クダ)り容易からす、甚嶮坂路(イトヤウカシキサカミチ)なり。

○門澤山

北大嶽に並て立り。

○小成山

○茂師山

宮古郡里の北、攝待村と、小本村との中間(アヒダ)にあり。皆海邊(ウミツラ)の大道にて、九折坂路なり。

○二段野坂

宮古郡里の北、小本村にあり。

○猿澤山

○袰野山

○乙茂山

宮古郡里の西北、猿澤村、袰野村、乙茂村にありて、共(ミナ)村名を負たる山なり。



○岩泉山

宮古郡里の西北岩泉村にあり。山中に岫穴あり、土人是を峩崖(ガケ)といふ、岩泉窟と云(フ)は是なり。

○尼額山

○袰綿山

○穴澤山

○門山

宮古郡里の西北、小本川の川上の左右にありて、共(ミナ)その村々の名を負たる山なり。

○早坂峠

宮古郡里の西北、閉伊・岩手二郡の堺に立り。山の東は門村西は岩手郡藪川村につゝく、盛岡の城下に往還道也。此山則小本川の水源なり。

○九界峠

宮古郡里の西北門村につけり。嶺上を經て、九戸郡江刈村に往來、ひとつの大道なり。

○晝取山

○兎狐自見山

宮古里の西北門村につけり。道路の左右に對立て、諸山に拔出たる高山なり。

○上安家嶽

○下安家嶽

○黑森山

宮古里の北、群山の中に立り。

○大芦山

○田野畑山

○普代山

宮古里の北にあり。みな其屬たる諸村の名を負へり。此山上を經て、野田里に通ふ則海邊の大道なり。

○松前坂

○牧澤山

○伐伏山



○唐松山

宮古里の北、九戸郡野田里に通ふ坂路にて、則海邊の大道なり。皆いと高き山のみなるが、山又山に立重りて、往來人昇降いたく困むところなり。

○鬼ケ窟

早池峯山の東面にあり。今是を鬼ケ城とも云、り。岩手郡の鬼ケ城の如くさかしき處なれは、尋常の人、容易は其處に至りて見決むへくもあらす、唯遠望のみなり。窟口に、いと平らに廣らなる、奇き大盤あり、此を千疊敷といふ。扨又旱魃の年、水かれて、田作業に困む時は、此窟に至りて、雨を請祈るに決て驗あり。既その山を下り果ぬ間に空かき雲、忽大雨降出て、その靈驗いといちしるしかし。

○貞任窟

小國村にあり。貞任城と相對たる窟なり。俗人、容易はえ至かたく、最嶮き處なり。扨穴口に甚大なる石戸あり、其戸、毎年に春半には開、又冬に至ぬれは閉、との開閉するは、人の爲事にはあらす、神の所爲なれは、奇とも奇き事なり。それ何時といふ日の定れるにもあらねと、其開閉の時には、山谷響動渡りて、いと恐き音爲なれは、此わたりの

村民それ知さるはなし。扨その音を聞つるより、杣人等諸山に入て、木伐出し、又其業を止めて、今は山より出へき時としも定め來しとなん。若それ犯して其音聞ても猶杣伐すれは、必災難ありとなん。

○八戸窟

宮古湊の渚にあり。八戸の某海にも、宮古窟といふあり、此窟より、彼海まて、何十里のほと、地中を通りて、平常に潮汐の流通ひぬれは、則八戸窟とは云なり。扨この窟を、所謂沖の井なりと云は非なり。

○仁王窟

月山の麓にあり。穴口圓して、徑三丈許深さは幾許か、測知れす、扨潮汐の干滿のまに、窟裏、轟動て、鳴神のとゝろくに異ならす。偶に此處に小舟を寄れは、窟裏より飄風起て、忽吹かへされてえ近つくべくもあらすとなん。扨又仁王窟と號たるは、如何なる所以にか詳ならす。

○潮噴穴

日出嶋の水際にあり。波の打寄まに〳〵穴口より潮煙立昇れる、高五六丈許なり。



大鯨の潮吹出せるに似たれは、則潮噴穴とは云なり。

○登騰穴

重茂村の海邊にあり。昔海驢多く寄來て、此窟に集へるを、それ漁て土產物としたる處なり。故登騰穴とは云なり。（登騰と云は方言にて海驢の事なり我郷にては鮭とも胡獱とも書て登騰とよめり。）

○登騰窟

大浦村にあり。此處に海驢數多集へる、それ漁ること今も毎年に絶す。土產のひとつなれは、諸國より商人等來集て、買もて行なり。故自然俗人、登騰窟とはいへるなり

○見違窟

門村の邊、盛岡の城下に往還大道の傍にあり。されと隱れたる處なれは往來の人、大方は見知す、唯何の心もなく、行過めり。土人傳云、昔大將軍、源義家、朝臣、所謂前九年の戰の時、朝敵、阿倍貞任に追しき窘られて、しはし此窟裏に隱れて、其難を避給ひし處なり。穴口は窄迫くあれは、辛して、這入る許なり。裏は圓く廣し、高さ七尺許、廣さは四五丈許にて、釜を伏たる其中の如し。扨中央に兜の貌なる物あり、熟見れは鍬・眉庇・吹返・筋鋏・列星等悉く具はる形狀なり、みなよく彫刻たる物の如くなれと、好事ものゝ所

爲ともおほえす甚奇くそ見えける。

○猿澤峒

猿澤村にあり。窟裏左右、上下の廣さ五六丈、或は三四丈許なる處もあり。奥の深淺幾許か量しられす。

○風竅

花原市村なる、花嚴院の後山にあり。此穴口より、恒に風吹起て絶ることなし、故風竅とは云へなり。

○荒川窟

荒川村の山中にあり。

○長澤窟

長澤村の山奥にあり。

○岩泉窟

下岩泉村にあり。某川に指出たる高山の半腹にありて、容易はえ到かたき處なり。窟裏廣さ一丈五六尺許、底の深淺幾許か測しられす、此邊に鐘乳石多かり。



○安家峒

下安家村の山奥にあり。

凡諸山野に、所在草木禽類は、岩手郡の下に標たるか如し。其中にも、仙人艸・濱なすの花・紫根・藍・紅花・文椎たけ・舞たけ・岩たけ・松たけの類最多し。

○釜石川

水源は、大槌里の西南、仙人峠の山下より出。東に流て釜石湊に入るなり。

○片岸川

水源は、大槌里の西、六角牛嶽の裾のわたり群山の谷々より出。東に流て大槌湊に入るなり。

○大槌川

水源は、大槌里北、金澤村の群山より出。南に流つゝ漸に曲折て、東に流て大槌湊に入るなり。

○津輕石川

水源は、宮古里の西南、群山の谷々より出。東に流て宮古の入海に入る、水門は鮭漁場

なり。

○閇伊川

水源は、宮古里の正西、兜嶽より出。東に流て宮古湊に入る、是則、宮古川の川上なり。扨川内村の邊に、靈潭(アナシキンチ)あり又腹帶村のわたりにも、大潭あり釜淵・大淵なといふもあるなり。

○宮古川

水源は、宮古里の正西、是則、閇伊川の下なり。水門は鮭漁場にて、名産は此處より漁(トレ)る鮭なり。凡て此國中に、鮭漁場數多あれと、世間(ヨノナカ)に名産として、もてはやさるゝは三所より漁れるを云なり。其第一(ソノカミ)は、北部市川なり、第二(ソノキ)は小本川、第三(ソノワキ)は北宮古川なり。すへて大小川に、皆鮭はあれとも、彼三所よりとれるに、優れるはなし。

○小本川

水源二つあり。一水(ヒトスヂ)は鎌津田川、一水は早坂川なり。二水(フタスヂ)合て東に流れて、大海に入る、水門は鮭漁場なり。

○鎌津田川



水源は、宮古里の正西、石峠より出。東に流て、淺内村に至て、小本川の上に入る、則小本川の一つの水源なり。

○早坂川

水源は、宮古里の西北、早坂峠より出。東に流此も淺内村に至て、小本川の上に入る、則小本川一つの水源なり。

○國境川

水源は、宮古里の西北、國境村の群山より出。南に流れ、門村に至て、早坂川に入るなり。

○岩泉川

水源は、宮古里の西北、群山の谷々より出。南に流て小本川の上に入るなり。

○二双石川

地理知らす、猶尋て標へし。

○折合瀧

早池峯山にあり。

○護摩堂瀧

横田村にあり。

○白糸瀧

荒川村にあり。

○大川大瀧

○七瀧

大川村にあり。

○出水流

達曾部村にあり。土人傳云、八鬼卷山の脊面、麓のわたりに失水潭と云あり。其水、地中を流通りて、此處に涌出るなりとなん、故に出水流とはいふ也。則此處は、彼山の影面ノ麓なれは然あるへし。

○失水潭

達曾部村にあり。則八鬼卷山の麓に、たきち下る瀧の本にて、其水常に絶ることなく此淵に流入るなり。されと、昔よりその水充滿て溢ることなく、又他に流行處もなし直に消失るか如くなれは、失水潭とは云也。旱魃の年、此所に來て、雨を請祈るに必驗



ありとなん。

○湧窟水

達曾部村にあり。いと淨潔細流なり。此水の涌口、上下二所ありて、其間何丁許隔れり、毎月朔日より、十五日までの程は、上の口より涌出、十六日より三十日迄は、下の口より涌出て、交替に一方やみぬれは、一方より涌出るなり。其日限を違はて、自然交替に涌出るは、いと〳〵靈き泉なりかし。

○沖之井清水

宮古里の東に、淨土濱といふあり。其所の四五丁許沖の海中に、眞水涌出る處あり、則古へより、其名聞ゆる沖井是なり。古今集卷十、物名の部に、小野小町、おきのゐて身をやくよりも悲しきはみやこ嶋への別れなりけり。此は、おきのゐ・みやこ嶋といへる物名二つをよめる歌なり。又伊勢物語に、昔みちのくにゝ男女すみけり。をとこ都へいなんといふ、此女いとかなしうて、馬のはなむけをたにせんとて、沖の井・みやこ嶋といふ所にて、酒のませて、よめる云々とあるも、此所の沖の井なり。みやこ嶋は、則宮古里を然いへるものなり。扨彼海中より、眞水の涌出る所を、詳に見んとならは、月の

清明なる夜、潮汐の滿干をはかりて、船漕出て見れはよく此所なりとは知るゝなり。

因云、みやこ嶋は、則宮古里にて、それ海中にもあらぬを、嶋といへるは、如何なる如くなれと、然にはあらす、抑嶋と云は、海中にまれ、國中にまれ、周廻に界限ありて、一區なる地をいふ名なり。必海のみならす、國中にて、山川なとの周れる地にも云なり。筑紫の宇佐嶋、大和國の輕嶋、師木嶋なと此餘にも、海なき國々に、某嶋といふ地名の多かる。則海中ならぬ地をもいへるにて、今此宮古嶋も其例なり。しまとは、しまり、しまる、なと云、語と同義にて、曠く界限なくはあらて、界限ありて、とりしまれる意よりいふ言なり。我郷にて稗を刈て皆ひとつに束ねて、畑中に立置るを稗嶋といへる則古語の遺れるなり。

○和井内藥泉

宮古里の正西、和井内村の山中にあり。此水を酌とり、溫て沐浴し、又冷水なからも飲服なとすへて頻に水氣を身體にもとむるに、溫泉にもをさ〳〵劣らす、決てその驗有事なれは、此處に來て此藥水を浴する人常に絶す。扨怪痾・癇疾・金瘡・撲損・疥癬・血毒・諸惡瘡・瘀血・積聚・積塊・中風の類日を經して消除、故俗人、藥水とはいふなり。



○攝待藥泉

宮古里の北、攝待村にあり。此水を溫て沐浴すれは、則萬病悉く消除、故男女老少群集て、常に絶す、大方は和井内藥泉に同し。

凡て大小川に、所在雜物は、和賀郡のところに、標たるか如し、但鮭尤優れり。

○釜石湊

海門の廣さ十丁、深二丈五尺許、兩石の湊まて、海路一里餘あり、此間岩つゝき荒磯なり。又伊達の唐丹浦まて、海路四里あり、扨此湊、大船何艘許も泊へきほとなり。

○兩石湊

海門の廣さ二丁、深さ五丈許、大槌湊まて、海路二里あり。荒磯つたひなり、大船何艘許も泊へくなん。

○大槌湊

海門の廣さ十三丁、深二丈許あり。山田湊まて海路七里あり、但荒磯なり。大船何艘許も泊へきほとの湊なり。東風の時は船泊るに悪し。

○吉利々々湊

海門の廣さ三十五間、深さ一丈五尺許、左右に岩ありて、船泊るには便悪し。

○山田湊

海門の廣さ七丁、深九丈五尺許あり。此湊、大船何艘許も泊へきほとなり。宮古湊まて海路七里の間、岩つゝき荒磯なり。

○宮古湊

海門の廣さ十六丁、深さ一丈五尺許、大船何艘許も泊へきほとの大湊なり。久慈湊まて海路十四里の間、荒磯岩つゝきなり。

○鷲巣嶋

○松嶋崎

○たちかね嶋

○兜嶋

○鎧嶋

○三貫嶋（借宿嶋とも云）

周十丁、高さ二十丈許あり、篁竹生離けり。其中に辨天社あり、陸地を放るゝ間何里あ



り。

○黒崎

○籬嶋

○千代ヶ嶋

○杉之嶋

○小田之嶋

○雀嶋

○兎嶋

○大嶋

周十丁許、松繁多、草生茂れり。

○珊瑚嶋

周何丁許、神社あり。松四五本生立り、以外悉く磯也。

○辨天嶋

○錦嶋

○女郎嶋
○小嶋
○大嶋 松叢生（シヤレウ）
○辨天嶋
○細浦
○宮古辨天嶋
○登勝賀濱
○大嶋
○小嶋
○はかま嶋
○鮹濱
○さんこ嶋
○秀嶋
○日出嶋



○鳥居嶋
○ねしろ嶋
○はねか嶋
○不動嶋
○三王嶋
○珊瑚嶋
○鯨浦
○赤嶋
○松嶋
○由兵衛嶋
○堂か嶋
○明戸（アケト）の浦
○しゝから嶋
○なまこ嶋

○松嶋
○まさいか嶋
○大黒嶋
○白井濱
○とりこめ大嶋
○橋渡矢嶋
○日和磯
○ほな嶋

凡て東海に所捕(トレル)くさ〳〵の物は、鯨(クヂラ)・鮪(シヒ)・鰹魚(カツヲ)・鯛(タヒ)・佐米・鰺(アヂ)・鰯(イワシ)・鮭(スヘキ)・鱸(スヽキ)・鯰(ナマヅ)・佐婆・伊那太・比良米・加抒・赤魚(アカヲ)・白魚(シラヲ)・阿夫良米・阿袁・須伊・卒都多良・登騰・多那古・やなきのまへ・鰨(スルメ)・海蛸子(タコ)・烏賊(イカ)・中嬴(ウニ)・霊嬴子・海鼠(コ)・保夜・北寄(キ)・波母・蠣(カキ)・鮑(アハビ)・蛤(ハマグリ)・蜆(シヽミ)・見あさり・榮螺(サヽエ)・石花(セ)・ゑらこ・海藻(ニキメ)・松海(マツノリ)・紫菜(アラメ)・昆布(コブ)・海苔(アノリ)・荒布(アラメ)・凝海菜(ロフト)等の類いと多かり、悉くは載(アク)す。

○達曾部城

達曾部村に城跡猶存り。誰人の居れつるかしらず。



○大槌城

大槌村に跡あり。

○近内城

近内村に跡あり。

○谷地城

綾織村に城跡あり。慶長年中の城主は遠野家人、上野石近なりとなん。

○鱒澤城 山城

鱒澤村に今も城跡あり。慶長年中遠野家人鱒澤左馬介廣昌なとの守れる城にや。

○板澤城 山城

板澤村に今も城跡あり。天正年中遠野家族、阿曾沼藤次郎が居(スヱ)りし城なりとなん。

○横田城 山城

横田里に今も猶あり。此城元來は俵藤太秀郷の後裔(スエ)阿曾沼四郎廣綱が、文治年中に右大將源頼朝卿より、遠野里の任(ヨサシ)を受賜りし時、次男亦次郎廣親が、初めて此所に下向(クタ)り、其子孫遠野某と名のりて、歴世居(スヱ)りし城なり。元來(モト)護摩堂山に在(アリ)て、横田城と稱(イヒ)

しを、天正年中、遠野、孫次郎廣郷の時に、今の地には移されたりとなん。されど、猶舊號のまゝに、横田城と呼今も然いへり、扨慶長年中、廣郷か子、遠野、孫三郎廣長か時に、亡滅て、歴代の遠野家絶たり。其以後は我君の所領地となりて、家臣八戸氏に負せて、今も猶守らしむる城則是なり。

○千德城 山城

千德村に城跡今もあり。天正年中、一戸、孫三郎か守りし城なりとなん。

○田鍬城 山城

田鍬村に城跡猶あり。天正年中、佐々木十郎左衛門か居りし城なりとなん。

○鮎貝堺關

奥友村にあり。伊達の江刺、郡人首、里に往還道なり。

○遊井名田堺關

鱒澤村にあり。同郡、同里に往還道なり。

○赤羽根堺關

赤羽根村にあり。伊達の氣仙郡、上有住村に往還道也。



○新屋堺關

新屋村にあり。同郡世田米村に往還道なり。

○平田堺關

平田村にあり。同郡小白濱に往・還道なり。

○通道

凡通道は、下宮森驛より和賀郡土澤驛に通ふ、行程三里二十丁。達曾部驛より稗貫郡大迫、里に通ふ、行程二里廿二丁。田代驛より岩手郡藪川驛に通ふ、行程五里三十丁。安家驛より九戸郡宇部、里に通ふ、行程七里十三丁。又普代驛より宇部、里に通ふ、行程四里三十四丁なり。

此郡中より、造り出るくさ〳〵の物は、魚粕・絹糸・貞綿・串貝・煎海鼠・鹽・針かね・魚油・慰斗・麻糸・藍・絹・紬・紅花紙等なり。

# 奥々風土記　卷六

陸奥國　江刺恒久撰

## 九戸ノ郡

東は大海を限り、南は閉伊郡、西は二戸郡、北は三戸郡に接く。此郡は舊く糠部郡と呼りしを、我君の所領地となりての後に、その糠部郡を分て、更に立られつる郡なり。故尤戸てふ郡名、古書には見えず。奥州五十四郡考に、九戸乃古糠部郡也と云るは、然ることなれと猶其説精からす。抑糠部郡と云つは、此九戸郡より奥つ方、三戸・鹿角・津輕・北の四郡も皆往古は糠部郡にて、たゝ一郡なり。今俗に、糠部五郡といへるは、其由なり。

九戸・三戸・岩手・鹿角、北の五郡を糠部五郡といへる説は非也。岩手は、五郡の中に九戸あらず。いと古き名にて元より一郡なる事、岩手の郡の中に委くいへるか如し。

郡も、即五郡の中の一郡なり。東鑑卷九、文治五年九月三日庚申の條に泰衡被囲数千

兵爲遁一旦命害隱如鼠退似飛差夷狄島趣糠部郡云々（今本に、糠部を糟部と書るは誤なり。）また同十七日甲戌の條に、安達絹千疋、希婦細布二千端、糠部駿馬五十疋、白布三千端、信夫毛地摺千端等也云々また同書卷十、同六年二月十二日丙申の條に、於外濱與糠部間有多宇末井之梯、以件山爲城郭云々また桂泉の天臺寺てふ寺の、古き鐘の銘に、大日本國奥州糠部郡桂泉八葉山天臺寺鐘銘並序（文略）于時元中九年壬申三月廿六日云々と見えたるみな當昔、五郡をすへて糠部郡とは云りしものなり。されど猶眞郡には有さりけん、延喜式・和名抄は更なり、拾芥抄にも見えす。是も彼假郡にて、首卷に委く論ふ如く、假に立つる郡名なるへし、如此て糠部郡はいたく地廣かりければ、後世にその一部を分て九戸・三戸・鹿角・津輕・北の五郡とし、是も又假に立られつる郡なりしを、遂に眞郡の如くその郡名、世間弘くはなれるもの也。然五郡に定りし後は、舊の糠部てふ郡名は、漸廢て今は纔に地名にのみ遺れり。二戸郡に、糠部てふところあり、扨又元祿年中、九戸郡を猶分て、更に二戸郡を立られたるなり。

深田村（云布加太）　木賣内村（云伎理那伊）
細野村（云本曾能）　端神村（云波志加美）



戸鏁村（云登久佐分上下二村）　野田村（云能大）
宇部村（云宇倍）　侍濱村（云佐牟良比波麻）
白前村（云志麻閑呂）　玉川村（云多麻賀波）
米田村（云麻伊多）　久喜村（云久伎）
小袖村（云古曾傳）　桑畑村（云久波波多）
下安家村（云志母阿都加）

上件米田村より以下五村は猶よく尋へし。

江刈村　葛卷村
斗田村　新屋村
山根村　小倉村
伊保田村　長興寺村
江刺家村　山屋村
上舘村　狄塚村
山内村　澤里村

圓子村　輕米村
晴山村　高家村
蛇口村　戸呂町村
帶島村　夏井村
閇伊口村　鳥居村
大野村　大崎村
門前村　小久慈村
南山形村　荷輕部村
河井村　繫村
長内村　長久寺村
有家村　中野村
種市村　大川目村

上件江刈村より以下三十八村は八戸君の所領地なれは、訓様悉くは知らす、猶よく尋て註を加ふへし。志波郡の下に殘せるも然り。

上件、五十三村は、九戸郡中に所在村なり。



○下戸鑞驛　○木賣内驛
○葛卷驛　○觀音林驛
○小國驛　○關驛
○宇部驛

上件、七所は、九戸郡中の驛家なり。

○野田里

盛岡城の東北にありて、城下より行程三十二里廿八丁餘あり。

○久慈里

盛岡城の東北にありて、城下より行程廿一里餘あり。

神社佛堂物に見えされは知へきよしなし。すへて此九戸郡は、大方八戸君の所領地なれは、尋かたし。驛家里なとも此餘にもあるへく、山川池沼と產物の類みな地理をしらされは、委く標へきよしなし。擧のみ也、猶よく地理を尋て記すへし。たゞ〳〵物に見えたるをいさゝか拾出て

○輕米里

盛岡城の北にありて城下より行程(マヽ)

○海藏院　山號無量山

宇部村にあり。野田左近か先祖より、歴代の菩提所也と云り。

○瀧澤山

○千丈山

野田里の南郡山に立交れり。此は古よりの鐵山にて國中第一の鐵なりと也。今も許多出て世間の大用をなせり。

○平庭嶽

久慈里の西南、江刈村にあり。

○種市山

○鳥谷部嶽

久慈里の正北、種市村につけり。

○三崎野牧

某村にあり。長さ一里餘横廿五丁、海につゝきたる所なり、馬立よし。

○北野牧

某村にあり。長さ六里餘、横一里許、海につゝきたる處なり。



○廣野牧

大野村にあり。

凡諸山野にあらゆる草木禽獸は、閉伊郡の下に擧たるか如し。

○玉川

水源は野田里の南、群山より出、東に流て海に入るなり。此川、古へより世に名高く聞えて、古歌にも多見えたる處なり。新古今集卷六に、みちのくにゝまかりける時よみ侍りける能因法師、夕されは汐風こして陸奥の野田の玉川千鳥鳴なり、夫木抄卷一に、若菜、建長五年、毎日一首中、爲家、さと人や野田の若菜をすゝくらん汀そにこる玉川の水、此餘にも後の哥集にあまた見えたる皆、此の玉川をよめるものなり。扨此川の邊より、玉の如くなる圓き石出て、大なる小き數多あり、玉川と云は、其玉石の因緣なりとなん。後世に六玉川とて諸國の玉川六つあつめたる、其中の千鳥の玉川則此なり。

○久慈川

水源は野田里の南端神村につゝきたる、群山より出。北に流て、更に曲折て、海に入るなり。

○閉伊口川

水源は、（マヽ）

○九戸川

水源は二水あり。輕米里の正南、群山の谷々より出。山を隔て二水共に北に流て輕米村に至て二水合。猶北に流て三戸郡に至、東北に折て八戸、湊に入るなり。

○馬淵川

水源は、久慈、里の西南小國といへるわたりの群山より出。南に流て漸に折て、西に流、二戸郡の田野村に入る。此則奥の大川の川上なり。

○久慈湊

海門の廣さ（マヽ）

○十府、浦

野田の海邊なり。古へより世に聞えたる名所にて、古歌も數多見えたり。新古今集卷十に、みちのくにゝ侍ける頃、八月十五夜に、京を思出て、大宮の女房のもとにつかはしける、橘爲仲、見し人もとふの浦風音せぬにつれなくすめる秋の夜の月、夫木抄卷廿



五、浦部に、中務卿、親王、家、哥合のうた、秋風を道因法師、陸奥の野田の菅こもかたしきて假寢さひしき十府の浦風、此、餘、後世の歌集にもよめる歌多し。因云、此邊の菅もて造出せる菰、を、世に菅こもとて、もてはやせり。古へより歌にもよみて此處の名產なり。

○野田入江

十府、浦にあり。今は沼の如くにて、陸、地、を、隔、れと、猶昔は海につゝきたる處なりとそ。夫木抄、爲家、朝臣、せきかくる野田の入江の澤水に氷てよとむ冬のうき草、又卷廿一、橋部に、平、政村、朝臣、朽のこる野田の入江のひとつ橋心ほそくも身そふりにけるなと見えたり。又一橋といふも、此わたりにありて、今も名所のかすに、もてはやさる。

○帶島

○大須賀浦

此わたり何丁許の間小豆の形なる小石いと多かり。

○久喜浦

○小袖浦

○侍濱

（マヽ）

凡て東海より所捕くさ〳〵の物は、閇伊郡の下に標たるが如し。俱、蚫・ゑらこの二品無類名産なり。

○葛卷城

葛卷村に跡あり。

○野田城

野田村に城跡あり。慶長年中、城主は、野田掃部といへり。

○久慈城

久慈村に城跡あり。我南部家族、太郎三郎朝清君の子孫、歴代居りし城なり、天正年中城主は久慈備前と云へり。

○種市城

種市村に跡あり。

○輕米城

輕米村に跡あり。



○通道

凡通道は、久慈里より、閇伊郡普代驛に通ふ行程四里三十四丁。野田里より、閇伊郡安家驛に通ふ、行程七里十三丁。葛卷驛より、岩手郡沼宮内驛に通ふ、行程六里十八丁。觀音林驛より、二戸郡福岡里に通ふ、行程三里廿九丁。又三戸郡中野驛に通ふ、行程（マヽ）。某驛より、三戸郡八戸里に通ふ、行程（マヽ）あり。

此郡中より造出るくさ〳〵の物は、魚粕・魚油・蚫・切込・串貝・鹽・赤綿・眞綿・絹糸・絹紬・菅莚・紙等なり。

# 奥々風土記　卷七

陸奥國

江刺恒久撰

## 二　戸ノ郡

東は九戸郡、南は岩手郡、西は鹿角郡、北は三戸郡につゝく。此郡は、元來は糠部五郡の中の九戸郡なりしを、かの五郡に分れて、後に猶その九戸郡を分て、更に二戸郡を置れたるなり。そは我行信君の御時、元祿年中のことなり。こは遙後世のことなれは、古書ともには、をさ〳〵見えさる郡名なれと、今は眞郡の如くにはなれるなり。

田山村（云二多夜麻一）　曲田村（云二麻賀多一）
荒屋村（云二阿良夜一）　五日市村（云二伊都加伊知一）
目名市村（云二米那伊知一）　岩屋村（云二伊波夜一）

浅澤村 云阿佐々波
大清水村 云於本志豆
大森村 云於本母理
岩淵村 云伊波布知
吉田村 云余志多
長流部村 云袁佐流倍
松岡村 云麻都袁加
杉澤村 云須伎佐波
里川目村 云佐登加波米
川又村 云加波麻多
安比村 云阿都比
足澤村 云多流佐波
斗米村 云登麻伊今分上下二村
海上村 二字以音

角崎村 云加抒佐伎
駒嶺村 云古麻賀美禰
淨法寺村 三字以音共
桂清水村 云加都良志美豆今唱御山
長渡路村 云那賀登名
澤口村 云佐波久知
漆澤村 云宇流志佐波
福田村 云布久多
江牛村 云延呂宇志
大築村 云於本夜那
似鳥村 云爾抒理多
本田村 本字以音訓田云多
野々上村 云能々宇閇
釜澤村 云加婆佐波



舌崎村 云志多佐岐
湯田村 云由太
堀野村 云本理能
前澤村 云麻閇佐今作米澤誤波
鳥越村 云登理碁延
村松村 云牟良麻都
白鳥村 云志呂登理
一戸村 云伊知乃閇
高禪寺村 三字共以音今作高全寺
女鹿村 今作妻鹿共云米加
岩舘村 云伊波多弖
冬部村 云布伊倍
面岸村 云於母伎志
小鳥屋村 今作小鳥谷共云古知夜

金田市村 金字以音訓田市云多伊知
矢澤村 云夜佐波
仁佐平村 云爾佐多比
石切所村 云伊志伎理抒古呂
福岡村 云布久袁加
坂本村 云佐加母抒
楢山村 云那良夜麻
樋口村 云比乃久知
西法寺村 三字共以音
小友村 云袁登母
根曾利村 今作根反共云禰曾理
姉帶村 云阿那多伊
田野村 云多能
高屋敷村 云多加夜志伎

朴舘村云本々乃伎多豆一　月舘村云都伎多豆一

出町村云伊豆流麻知一　岩清水村云伊波志美豆一

中里村云那加佐登一　小繋村云古都那岐一

平糠村云比良奴加一　宇別村云宇倍都一

中山村云那加夜麻一　馬羽松村云麻波麻都一

摺糠村云須理奴加一　火行村訓火云比行字以音今作日行一

上件七十四村は、二戸郡中に所在村なり。

○田山驛　○曲田驛猶よく尋て決むへし

○荒屋驛驛所の數にはみえす猶尋ぬへし　○一戸驛

○金田市驛　○淨法寺驛猶よく尋て決むへし

上件六所は、二戸郡中の驛家なり。

○福岡里

盛岡城の正北にありて、城下より行程、十八里三十五丁あり。天正十九年のころ、此地の宮野城を改めて、福岡城と稱號を負せしより、其名の自然うつりて、此里名の如くに



もなれるものなり。故今世には普く福岡里とはいへり。舊名は何とか呼たりけん知らず、猶尋て云へし

○秋葉神社　○白山神社

淨法寺村にあり。永祿二年のころ、齊奉れりとなん。

○小枝八幡神社

一戸村にあり。往古源義家朝臣、某國の男山八幡の神靈を、此所に遷奉りて、以祭給ひし神社なるよし云傳ふ當昔捧奉れる冑、今に存り。又慶長元年丁酉九月三日と記したる棟札あり。いと古き神社なり。

○八幡神社

淨法寺村にあり。此地領主淨法寺修理□□か建立たりし御社なりとなん。

○八幡神社

一戸村にあり。齋奉りし年月はしられねといと古き御社なり、柏の古木二本あり。

○稲荷神社

淨法寺村にあり。大同年中よりの御社なりとなん。

○天滿天神神社

前澤村にあり。貞應年中齋奉れりとなん。扨往古よりの神體は、既朽果にたれは、正德年中に我利幹君の新に造奉りて、安置まつれるものなり。今の御靈實則これなり。

○神明神社

福岡里にあり往古は村松村の山上に齋奉りしを御社汚穢つることの在しによりて、天正十九年に此處には遷奉れりとなん。今伊勢久保と云邊は舊の御社地なり。

○呑香稻荷神社

福岡里にあり。最古社なり。

○武内神社

堀野村にあり。建内宿禰大臣を崇祭れるなり。往古建内宿禰命、奥夷を征伐賜ひし時、この堀野村まて下向在し、其跡地なるよしにて、仁德天皇の御世、庚寅年三月に大臣の神靈を令座奉つるなり。扨後大同年中に、坂上田村麻呂の再興られたる御社也となん。



○稻荷神社

岩舘村にあり。

○熊野神社

小鳥屋村にあり。慶長十二年卯月再興棟札あり。

○牛頭天王神社

金田市村にあり。いと古社なり、昔より村鎭守と崇奉れる神社なり。

○延命地藏堂

小繫村にあり。大同年中建立たりとなん。佛像の丈六尺五寸、これ雲慶か作れりといへり。又境内に

○稻荷神社○山神社○牛頭天王社○幸神社等あり。みないと古き神社なり。

○鳥越觀音堂

鳥越村にあり。崮の裏に安置奉れる本尊は、木佛にて丈二尺三寸あり、慈覺大師が造れりとなん。

○桂泉觀音堂

桂清水村にあり。聖武天皇の御世神龜年中に勅命に依て經營よし云傳ふ。佛像は丈三尺九寸五分許行基菩薩の作れりとなん。寺號を、八葉山天臺寺、また地名を、桂泉なといへる則、鐘の銘にも明て、いと舊跡なりけり。その鐘銘に、大日本國、奥洲糠部郡桂泉、八葉山天臺寺ノ鐘銘並序　當山廼聖武帝之勅建、行基師之權輿也年序遥遥六百五十五歳矣、爰任倡道尊募諸縁鑄鉅鐘、永鎮山門、彷徴銘々曰、　維天之象　則之而然　絶于方隅、鏗乎渾圓、　包容群有、　震驚大千、　慶喜質疑、　羅云秉權、　庚兮夕兮　扣擊弗愆　鉉兮殷兮　教令明宣、　佛運洪々　帝道平々　庶期來劫、　永鎮桂泉、　于時元中九年壬申三月廿六日　幹縁沙門土佐阿闍梨道尊敬誌　長久住持義山叟釋明恩謹誌　大檀那左馬權頭源朝臣守行　大工七郎沙禰と彫付たり又鰐口に正平十八年五月四日、源信行貞治六年丁未十月三日、六郎太郎源、重盛と彫付たる二つあり。扨桂泉といへるよしは御舍の傍に、いと大なる桂の樹ありて、其下より冷水の涌出たれは、然いへりとなん。其桂今は枯果て、纔に根のわたりのみ朽殘れり。泉は猶今もあれと、漸に涌疎なりて古へのほとにはあらす、扨今は又他の桂の樹下より涌出るあり、是ももとの泉に勝はかり、いとよき水なり。扨境内に、阿彌陀堂・辨天堂・權現堂・大黒天堂・若宮堂等



あり、本尊はみな行基菩薩か作れりとなん。

○朝日觀音堂

石切所村にあり。いと奇しき窟の裏に安置奉れるなり。

○月山堂

上斗米村にあり。

○毘沙門堂

田野村にあり。大同年中建立たりとなん。

○毘沙門堂

西法寺村にあり。本尊は木佛にて、丈五尺許あり、慈覺大師か造れりとなん。古老傳云、昔山の半腹に福壽山西法寺といへる寺ありしを、天正年中、九戸の亂の時破却ぬといへり。當時の唐戸一枚・舛一つ・臂木一つ今も此三品猶存れり。されはいと古き寺跡にて、則村號にも西法寺とは負たりけん。又慈覺大師か作れる阿彌陀佛の、四尺許なる木像もあり。

○新山權現堂

似鳥村にあり。天正五年十月の棟札あり。

○安養寺山號云得生山

福岡里にあり。元來慈照寺と呼て、石切所村にありしを、後世に此には移せりとなん。

○福藏寺山號云吉祥山

淨法寺村にあり。いと古寺也。

○金峯庵山號云釜澤山

釜澤山にあり。小笠原淡路守か天正の頃の人にて、十九年十月廿八日に死れり。法名は常樂寺殿前淡州太守瑩仲玖公大禪定門といへる、今も此寺にあり。

○實相寺山號云諸法山

一戸村にあり。圓忍僧都か所造寺也となん。此僧都、はしめは、京極民部□(マヽ)有忠といふ人にて、世を遁れて後、皇都の、平野てふ所に居住たりしを、保元平治の亂に猶世の靜なる所にとて、陸奥國に下向、此郡の金田市村に、願海院といへる寺を造りて居れたりとなん。然後に良滿といへる住僧が、淨土宗に改め、又其三世の鐵殘法師のとき、福岡村の村松てふ所に寺を移して則村松庵と號また其後の鐵岡といへる僧か、一戸村の



今の地に轉移て寺號を實相寺と改めたりとなん。今金田市村なる實相庵といへるは、此寺の舊跡なり。

○中山峠

福岡里の正南、岩手・二戸の二郡の間に立る高山也。此處より北方を、昔は奥の細道といへり。松前夷か千島に往還大道なり、又此山を、あひの中山ともいふ、山家集(マヽ)西行東路のあひの中山程せはみ心の奥の見えはこそあらめとよめるは是なり。奥とは此處より北方をすへていへる名にて、則今も然いふなり。又おくの細道といふ方を南さまに、末の松山へ尋行云々なと見えたり。

○淨法寺嶽

福岡里の南西にありて、某村につけり。此嶺上は鹿角郡に往來ふ道なり。

○稻庭山

福岡里の正西杉澤村につける群山に拔出たる高山なり。嶺上に、稻荷神社あり。村人傳云、大同年中令座まつれりとなん。

○四角嶽

福岡里の南西、二戸・鹿角岩手の三郡の界に立り。南に七時雨山北に來滿山ありて、其中間に立て、三山みな群山の表にあらはれて、甚高山なり。山の腰邊、鹿角郡に往還道なり。

○末の松山

福岡里の南、一戸村に屬たる高山なり。此山上を經て、一戸驛に往來ふ則奥の大道なり。古より世に高く聞えたる名所にて、古歌に、末の松山とよめる多く見えたるは皆是なり。古今集卷六、冬の歌に、寛平の御時きさいの宮の哥合のうた、藤原興風、浦近くふりくる雪は白波の末の松山こすかとそ見る、又同卷廿、みちのくうたに、君をおきてあたし心を我もたは末の松山波もこえなん、後撰集、卷十(マヽ)の歌に、をとこのもとへ土佐、吾袖は名にたつ末の松山の空より波のこえぬ日はなし、後拾遺集、卷十四、戀の歌に清原元輔、ちきりきなかたみに袖をしほりつゝ末の松山波こさしとは、此餘御代々の撰集、又人々の家集にあまた見えたり。扨此山は海邊近き處にもあらぬを、古歌に、波のこえん、こえしの意をよまれたるに依て昔より種々論ひあれとみな地理を知らぬ説なれはよくあたれるはなし。故熟按ふに、此山に、まつ近き海は、八戸浦なれ



と、それいと遙に隔たりたれは、波の見ゆはかりなる所にもあらす。けにとり〳〵の論ひも出くめる中に、山よりはるかにのきたる海の波の、山のはより見こされて、こゆるやうに見ゆといへる説は聊據ありぬへくおほゆるなり。そは今世こそ海は遠かれ、往古は、此山本近く波の打寄りし地にてかの古今集の序に高き山も麓のちりひちよりなりてといへる如く、陸地も漸に廣らになり行て年經まゝに海は遙に遠放たりけん、今地理をよく考るに、則八戸浦は、然遠のきたる海なるへし。夫木抄卷廿に仁安二年二月、清輔朝臣家歌合、海邊霞從三位頼政卿、春霞へたつる頃は白波のこすとも見えぬ末の松山、判詞に、此うた判者衆議末の松山の歌はいとゝをかしく侍るに、海のほとりの霞には、へたゝりたるこゝちす。かの末の松山は、まことに波のこゆるにはあらす、山より遠にはるかにのきたる海のなみの、山のはより見こされて、こゆるやうに見ゆるなり。されは題のこゝろにはかなはすや、中にもへたつとよまれたれは山よりこなたにたてるかすみにこそ、と申人もありしかと、ちかく、江中納言の歌に、末のまつ山波こさはみねのはつ雪消もこそすれ、とよまれたれは、それをひかことにはよむと申さるゝひとも侍りしかはとかなくなりぬと云々、袖中抄卷十八に、顯昭云、末の松山は、

みちのくにあり中略末の松山波こすといふ言は、むかし男女にあひて、末の松山波をさして、かの山に波のこえんときそ、こと心はあるへき、とちきりけるより男も女もことふるまひするをは末の松山波こすとよむなり、何事によりておもひかけす山に波のこえんことをはちかひけるそとおほつかなきに、かの山は遠くてみれは山よりあなたに波のたつか、山より上にみこされて山をこゆとみゆるによりてまことの波のこゆへきよしをちかへるなめり云々といへる説のみはいさゝかあたれる様なり。扨又末の松中の松もとの松なといへるは古へより聞えぬ名所なれは、此處にはよしなきことなり。又此末の松山を、今俗波打峠といへり、彼古へ、山本近く波の打よりし地なれはその由縁を思ひて、土人の然云傳へたるものか、是も聊據ありけなり。

○折爪嶽

福岡里の正東、福岡村に屬たる群山の中に立て、二戸・九戸の二郡の堺なり。此邊の高山なれはとみに見放らるゝ山なり麓は古への牧にて廣野なり。

○平糠嶽

福岡里の正南にありて、平糠村につけり。



○根地戸山

福岡里の正南、冬部村につけり。

○二神山

福岡里の東南、根曾利村につけり。二山相對立る山なり。

○玄勢山

福岡里の東南、根曾利村につけり。

○安比嶽

福岡里の西南荒屋村に屬たる群山の中に立て、いと高き山なり。

○野形山

福岡里の西南荒屋村にあり。

○芦名澤嶽

福岡里の西南、杉澤村につけり。稲庭嶽に接たる山也

○一戸牧

金田市村にあり。折爪嶽の麓にて、長さ(マヽ)里、横(マヽ)里許馬淵川につゝきたる處

なり。古は世に聞えたる名馬のみ出つる牧なれと、今は馬立絶えたり。源平盛衰記卷三十六に、「上略」權太栗毛ニ乘タリケリ、此馬ハ、熊谷カ中ニ權太トイフ舍人アリ。季緒カ流ヲモ習ハス、伯樂カ傳ヲモ聞サリケレモ、能馬ニ心得タル者ナリケレハ、召向テ當時ニ源平ノ合戰アルヘシ。折節然ルヘキ馬ナシ、海ヲモ渡シ、山ヲモ越ヘキ馬、尋得サセヨト云テ、上品ノ絹二百疋持セテ奥ヘ下ス。權太陸奥國一ノ戸ニ下リ牧ノ内走リ廻リテ、撰勝ツテ四歳ノ小馬ヲ買タリケリ。扨コソ、此馬ヲハ權太栗毛トハ呼ケレ云々、」また太平記關東の大勢上洛の事をいへる條に「上略」こかねつくりの太刀を二ふりはき、一のへい黒といふ坂東一の名馬、五尺三寸ありけるに打のり云々」と見えたる名馬等の出つる牧は、則此處なり。一戸黒と呼るも即地名を負せつるものなり。さて生唆、磨墨の兩馬も、此牧より出たりと云説は非なり、そは三戸郡の下にいふへし。

凡諸山野に、所在草木禽獸は、川芎・當歸・藿香・麥門冬・荆芥・薄荷・防風・杏香・細辛・白芷・知母・芍藥・五味子・黄柏・附子・蒼朮・白朮・黄芩・半夏・貝母・車前子・葛根・牛膝・忍冬・木通・大黄・牡丹・紫根・薯蕷・天南星・獨活・桔梗・蒲萄・卓解・蕗・蕨・松・杉・櫻・栗・うるしの木・檜・樅・擧樹・禽獸には、鷹・農・風・鳥・雉・鶉・鳴・鹿・猪・猿・兎・狼の族いと多かり。但薯蕷・雉の二種は、世に類なき土産物なり。此餘



岩手郡のところに標たるが如し。

○馬淵川

水源は、九戸郡なる小國と云邊の群山より出。西に流て二戸郡の田野村に出、則多くの諸村を經つゝ、北に流るゝまゝに、大小川みな是に流入て、やゝ大川となれり。三戸郡に至て東に曲折て、猶諸村を經て、八戸湊に入る、此則奥の大川なり。

○白鳥川

水源は、福岡里の正東、折爪嶽につゝきたる群山より出。西に流て、福岡里に至て馬淵川に入るなり。

○猫淵川

地理知らす猶尋ぬへし。

○田山川

水源は、福岡里の西南、田山村の群山より出。西に流れて、折壁川と二水合、猶西に流れて米白川に入るなり。

○折壁川

水源は、福岡里の西南、四角山より出。南に流て、田山川と二水合ひて米白川に入るなり。

○淨法寺川

水源は、福岡里の西南、安比嶽に續たる群山より出。北に流て、漸に曲折て東に流れ、似鳥村に至て、馬淵川に入るなり。

○海上川

水源は、福岡里の正西、根森と云邊の山中より出。東に流れて馬淵川に入るなり。

○金田市川

水源は、福岡里の正西、本田村に屬たる群山より出。東に流て馬淵川に入るなり。

○七瀧

冬部村にあり。一所に瀧七つある故に、然いふなり。その第一の瀧の長さは七八丈餘、渡りは一丈五尺許。第二は三丈餘、わたり一丈許。第三は二丈餘、わたりは八尺許なり。他はみな是等に同しきほとなり、土人此處に小社を建立て瀧明神と稱、奉れり。

○櫻松瀧

福岡里の西南、曲田村の山中淨法寺川の上にあり。瀧の落下る長さ三丈餘、わたりは



二丈許なり。此處に不動尊を安置まつれり。

凡諸川沼等に、あらゆる雜物は、鰒・鮒年魚・たなこ・波衣・山偉・久伎・海老・どぢやうの類甚多し。鳥は鶴・鷹・鴨・鵜多加・夫・鴛鴦此餘岩手郡の下に標たるが如し。

○湯田溫泉

福岡里の正北、金田市村にあり。世俗、溫湯ともいへり。馬淵川を隔て川岸より湧出。此處に浴人、多は六七月の間のみなり。他の溫泉よりは、其しるし大劣れる故に浴人少し。

○姉帶城　山城

姉帶村に城跡猶存り。天正年中、姉帶與次郎兼政か居住し城なり。先祖は、十六代助政君の次男(マヽ)の裔にて、則我南部家族なり。

○一戸城　平地

一戸村に今も城趾あり。我光行君の御子、彦太郎行朝君の居りし城にて、その子孫、一戸氏歷代此に居住り。天正年中、城主は、一戸圖書□(マヽ)となん又此城を北館ともいへり。

○金田市城　平地